

5.2.3 S-2・S-6 (2) F-8.5' 孔 —評価結果—

【最新面の認定】

○F-8.5' 孔の深度8.50m付近で認められるS-2・S-6において、巨視的観察及び微視的観察を実施し、最新ゾーンの下盤側の境界に最新面を認定した(P.143～146)。

【鉱物の同定】

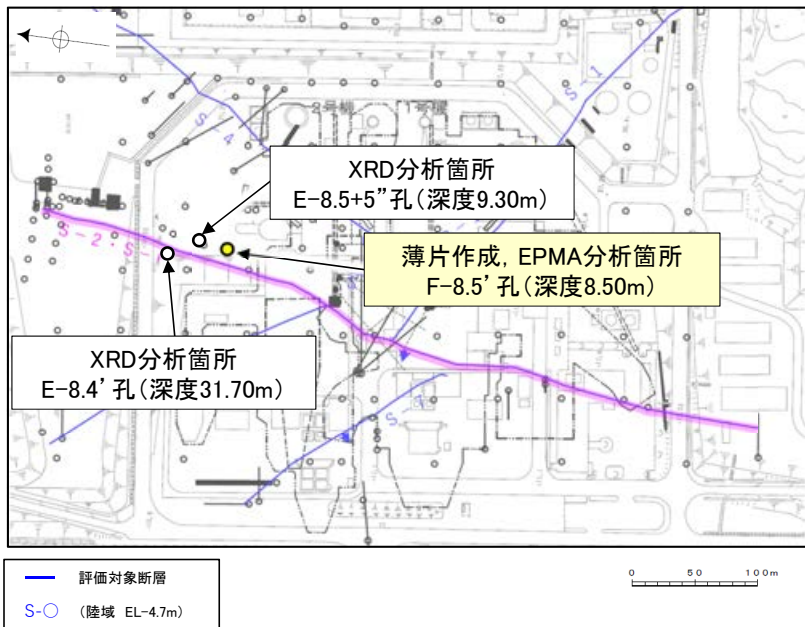
○微視的観察により確認した粘土鉱物は、EPMA分析(定量)による化学組成の検討結果及びXRD分析(粘土分濃集)による結晶構造判定結果から、I/S混合層であると判断される(P.147, 148)。

【変質鉱物の分布と最新面との関係】

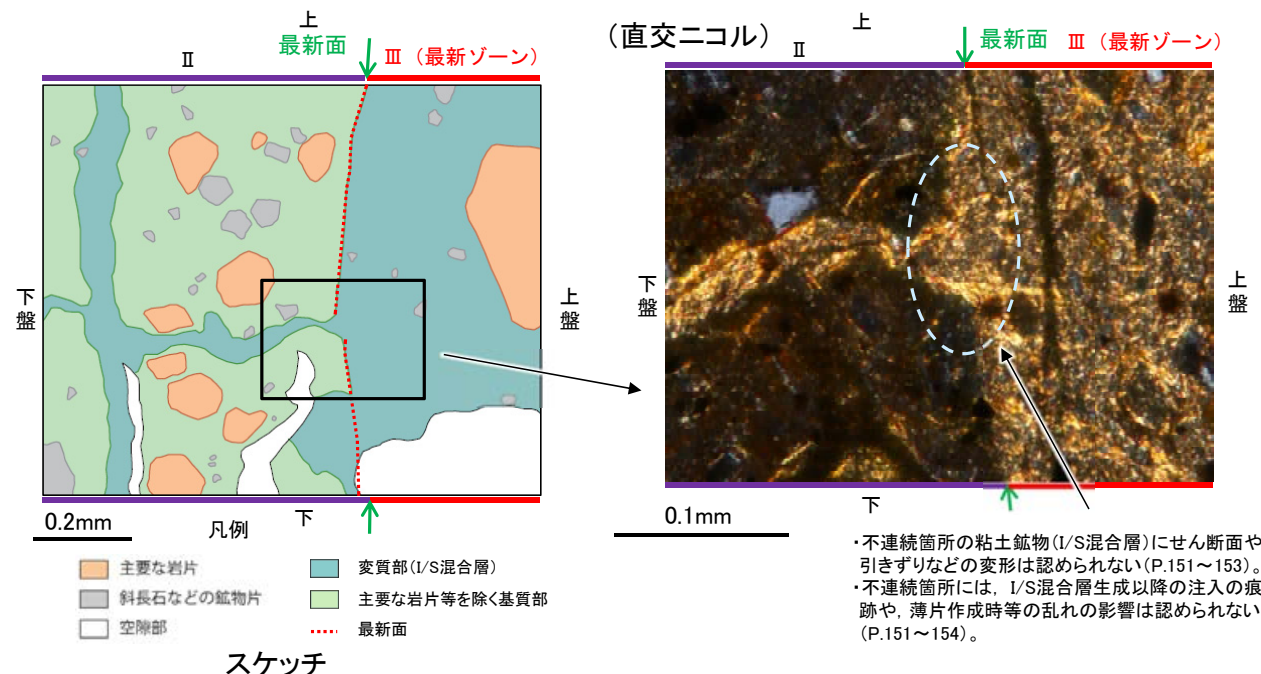
○EPMA分析(マッピング)や薄片観察により、粘土鉱物(I/S混合層)の分布範囲を確認した結果、粘土鉱物(I/S混合層)は最新ゾーン及びその周辺に分布している(P.149, 150)。

○最新面付近には広く粘土鉱物(I/S混合層)が網目状に分布し、最新面が不明瞭かつ不連続になっており、不連続箇所の粘土鉱物(I/S混合層)に変位・変形は認められない(P.151～153)。

○以上のことを踏まえると、S-2・S-6の最新活動は、I/S混合層の生成以前である。



調査位置図

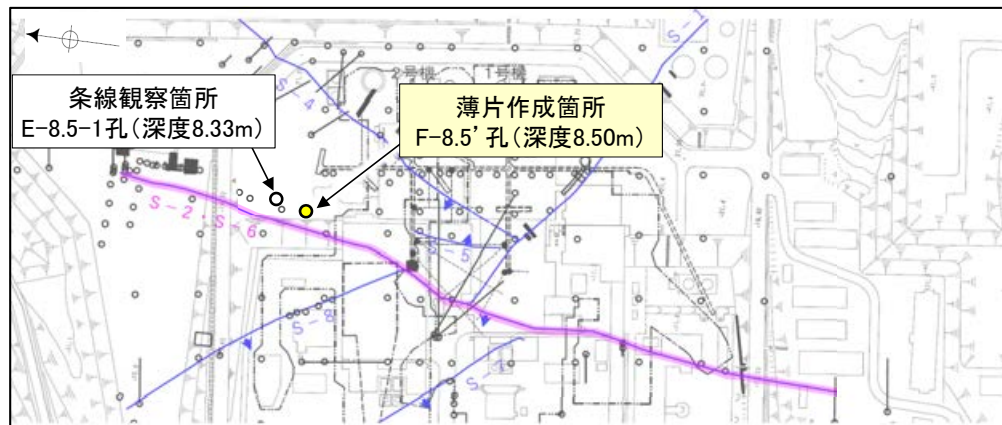


・不連続箇所の粘土鉱物(I/S混合層)にせん断面や引きずりなどの変形は認められない(P.151～153)。
 ・不連続箇所には、I/S混合層生成以降の注入の痕跡や、薄片作成時等の乱れの影響は認められない(P.151～154)。

5.2.3 S-2・S-6 (2) F-8.5' 孔 —最新面の認定(巨視的観察)—

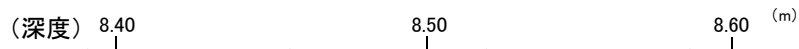
○F-8.5' 孔の深度8.50m付近で認められるS-2・S-6において、巨視的観察(ボーリングコア観察, CT画像観察)を実施し、最も直線性・連続性がよい断層面を主せん断面として抽出した。

○隣接孔(E-8.5-1孔)の主せん断面における条線観察の結果、140° Rの条線方向が確認されたことから、F-8.5' 孔において、140° Rで薄片を作成した(ブロック写真)。



・条線観察結果については補足資料5.2-12(2)-2

調査位置図



走向傾斜: N5° E/51° NW

- 粘土状破砕部
- 角礫状破砕部

上

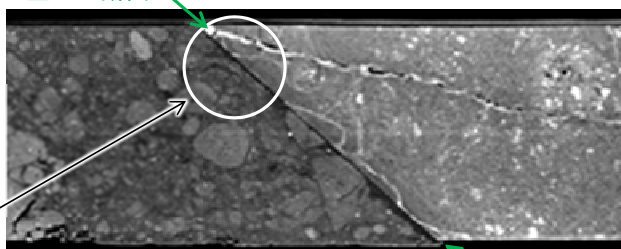


下

右ブロック採取箇所

ボーリングコア写真(F-8.5' 孔)

上



下

右ブロック採取箇所

CT画像(F-8.5' 孔)



1cm

ブロック写真

5.2.3 S-2・S-6 (2) F-8.5' 孔 ー最新面の認定(微視的観察)ー

- 微視的観察(薄片観察)の結果、色調や礫径などから、下盤側よりⅠ～Ⅴに分帯される。
- そのうち、最も細粒化している分帯Ⅲを最新ゾーンとして抽出した。
- 最新ゾーンと分帯Ⅱとの境界に、面1が認められる。面1は薄片上部では一部不明瞭になるが、薄片中央～下部では直線性・連続性がよく、全体として最新ゾーンの中では比較的直線性・連続性がよい面である。
- 最新ゾーンと分帯Ⅳとの境界は、不明瞭で漸移的であり、せん断面は認められない*。
- 以上より、面1を最新面と認定し、変質鉱物との関係を確認する。

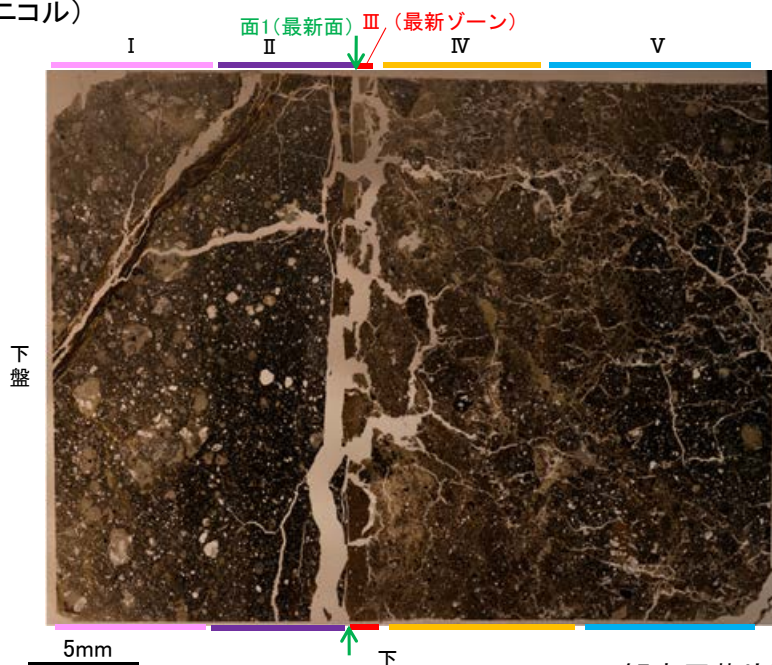
※最新ゾーンと分帯Ⅳとの境界についての詳細は次々頁

【解釈線なし】

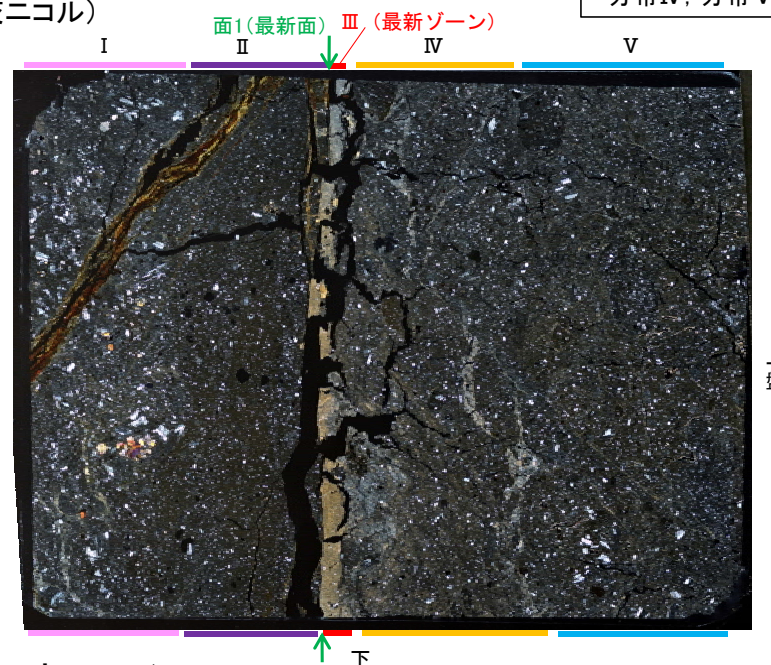
分帯とコア観察における破碎区分との対応

- ・分帯Ⅲ(最新ゾーン)・・・粘土状破碎部
- ・分帯Ⅳ, 分帯Ⅴ・・・角礫状破碎部

(単ニコル)



(直交ニコル)

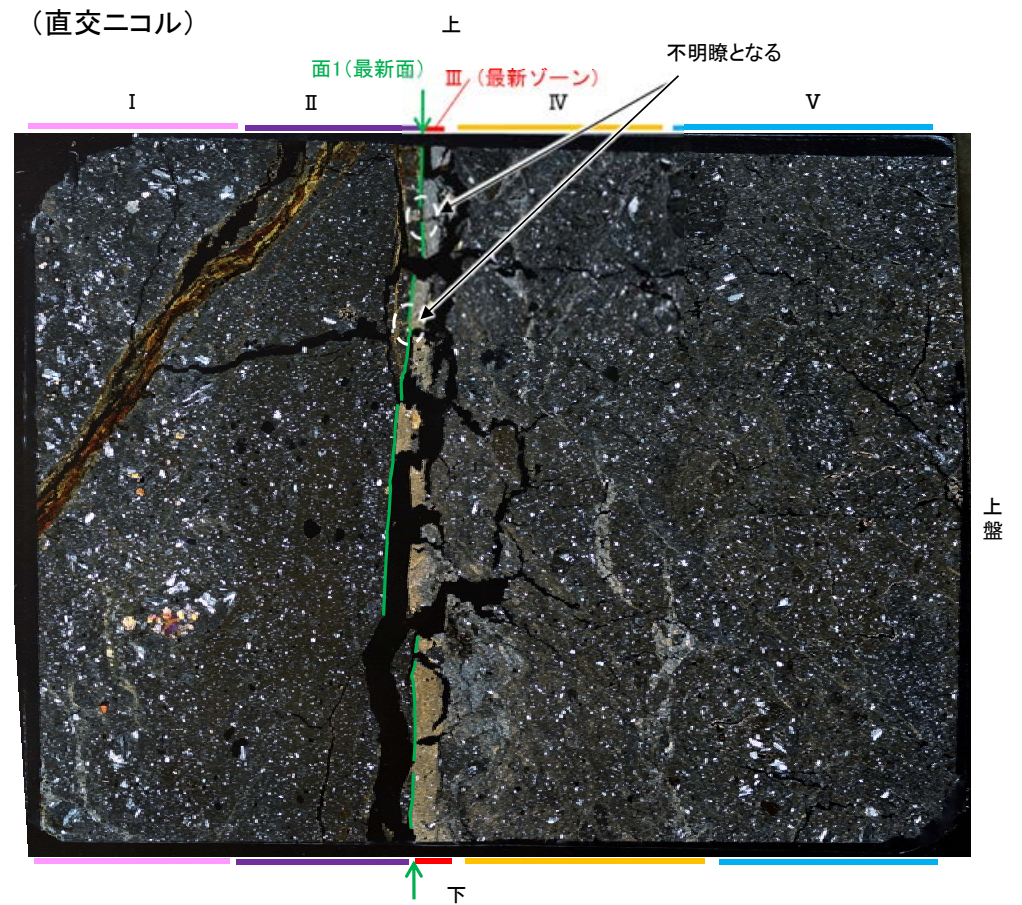
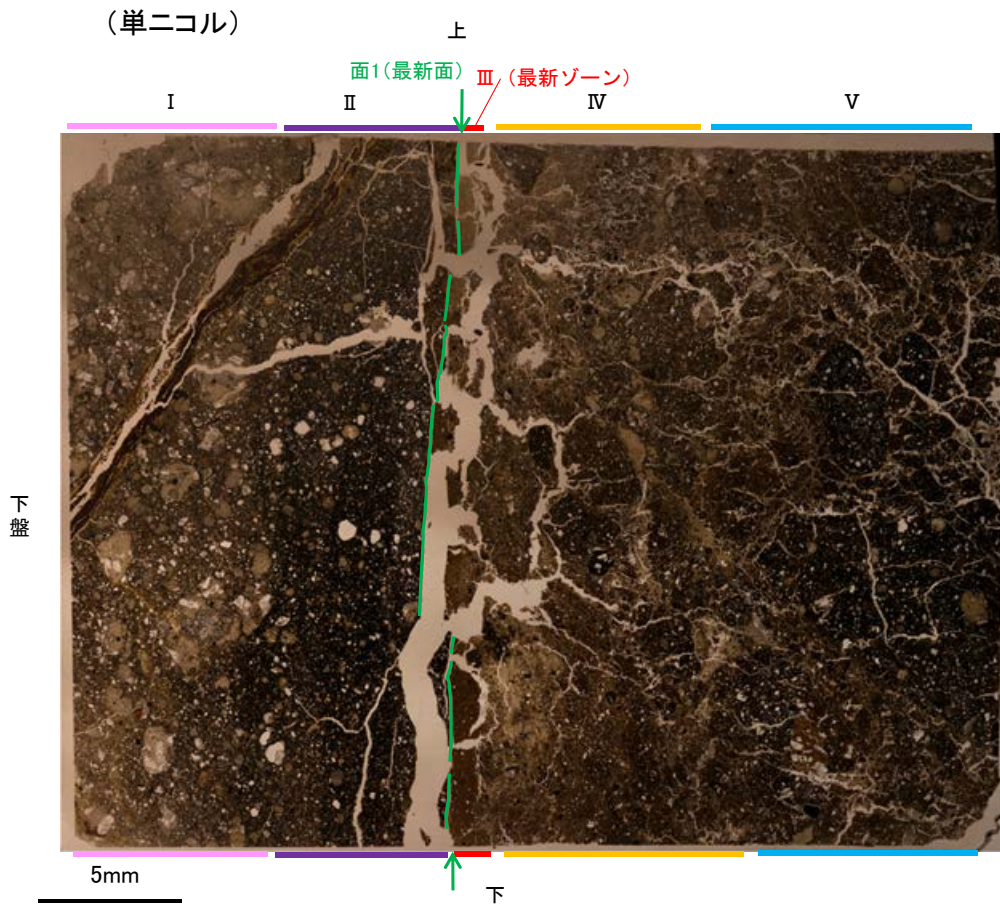


観察用薄片写真(F-8.5'_140R_2)

- Ⅰ: 単ニコルで褐灰～灰色、直交ニコルで灰色の干渉色を呈する火山礫凝灰岩からなる。径5mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片、鉱物片は垂角～垂円形である。基質中や割れ目、岩片の縁辺部に粘土鉱物が生成されている。
- Ⅱ: 単ニコルで褐灰～暗灰色、直交ニコルで灰色の干渉色を呈する細粒凝灰岩からなる。径1mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片は垂角～垂円形、鉱物片は角～垂円形である。割れ目や岩片の縁辺部に粘土鉱物が生成されている。
- Ⅲ(最新ゾーン): 単ニコルで褐灰色、直交ニコルで黄～灰色の干渉色を呈する、粘土鉱物を含む細粒物からなる。径0.3mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片、鉱物片は垂角～垂円形である。基質中に粘土鉱物が生成されている。
- Ⅳ: 単ニコルで褐灰～灰色、直交ニコルで褐灰～灰色の干渉色を呈する凝灰岩からなる。径4mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片は垂角～垂円形、鉱物片は角～垂角形である。基質中や割れ目、岩片の縁辺部に粘土鉱物が生成されている。
- Ⅴ: 単ニコルで褐灰～暗灰色、直交ニコルで褐灰～灰色の干渉色を呈する凝灰岩からなる。径5mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質中に含まれる。岩片、鉱物片は角～垂角形である。基質中や割れ目、岩片の縁辺部に粘土鉱物が生成されている。

S-2・S-6_F-8.5' 孔

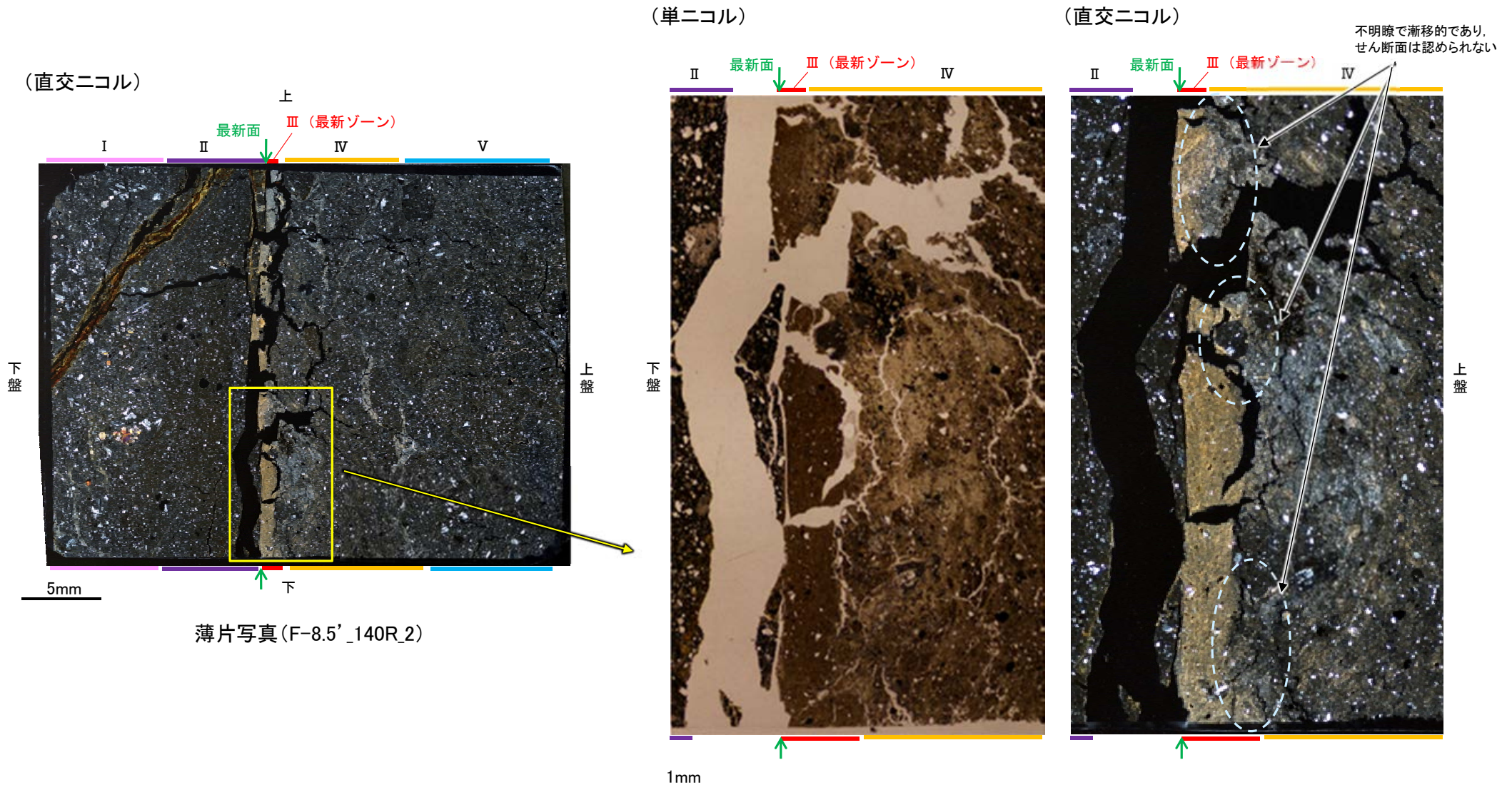
【解釈線あり】



観察用薄片写真(F-8.5'_140R_2)

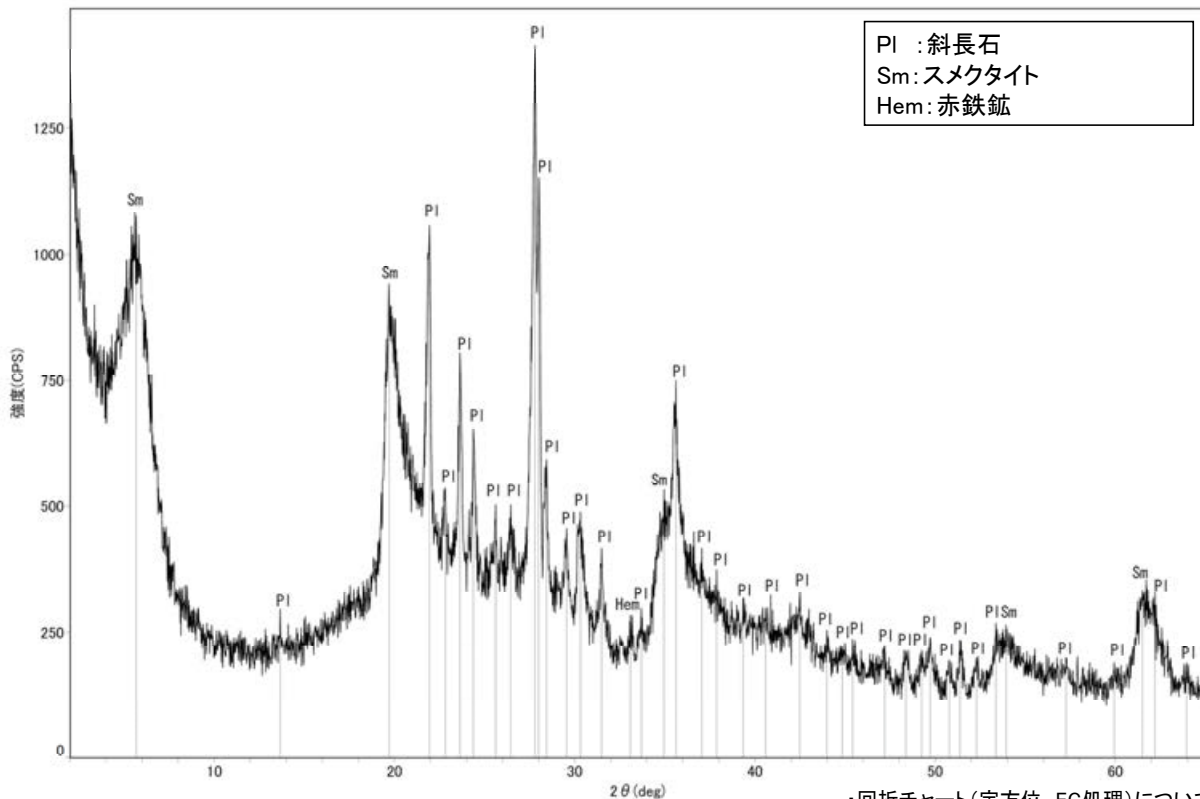
5.2.3 S-2・S-6 (2) F-8.5' 孔 ー最新ゾーンと分帯Ⅳとの境界ー

○微視的観察(薄片観察)の結果, 最新ゾーンと分帯Ⅳとの境界は不明瞭で漸移的であり, せん断面は認められない。



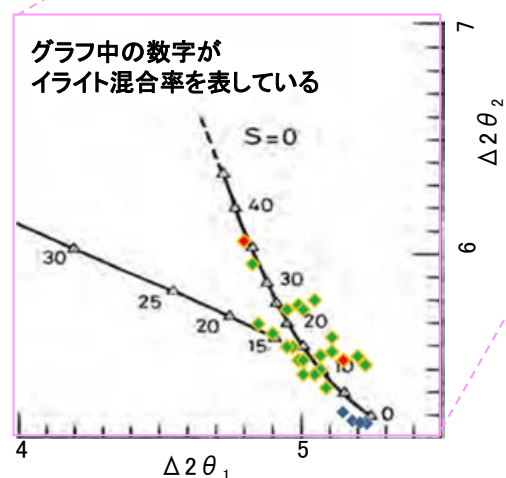
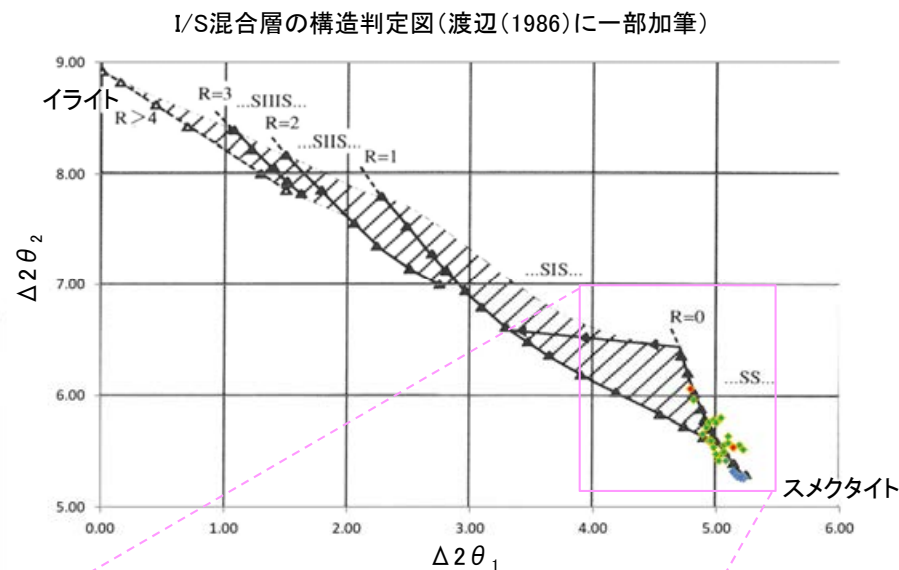
5.2.3 S-2・S-6 (2) F-8.5' 孔 — 鉱物の同定(XRD分析) —

- 最新ゾーン付近でXRD分析を実施した結果, 主な粘土鉱物としてスメクタイトが認められる。
- スメクタイトについて詳細な結晶構造判定を行うために, 同一断層の別孔(E-8.4' 孔, E-8.5+5" 孔)の破砕部においてXRD分析(粘土分濃集)を実施した結果, I/S混合層と判定される。



回折チャート(不定方位)

・回折チャート(定方位, EG処理)については,
補足資料5.2-12(1) P.5.2-12-17



- ◆ S-2・S-6 (E-8.4' 孔, E-8.5+5" 孔)
 - ◇ 敷地の粘土鉱物
 - ◆ 標準的なスメクタイト Nakata et al.(2019)
- ・S-2・S-6試料の詳細検討結果は
補足資料5.2-2(2) P.5.2-2-28,29

I/S混合層の構造判定図(渡辺(1981)に一部加筆)

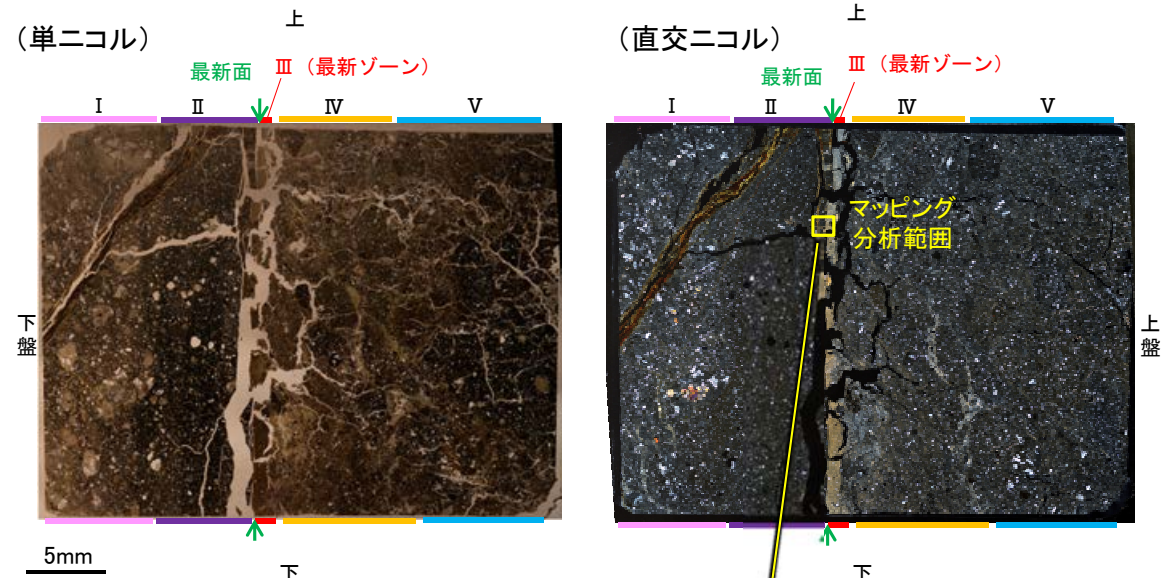
5.2.3 S-2・S-6 (2) F-8.5' 孔 - 鉱物の同定 (EPMA分析 (定量)) -

○最新面の認定を行ったものと同一薄片で実施した, EPMA分析 (定量) による化学組成の検討結果から, 最新ゾーンやその周辺に分布する粘土鉱物はI/S混合層であると判断される。

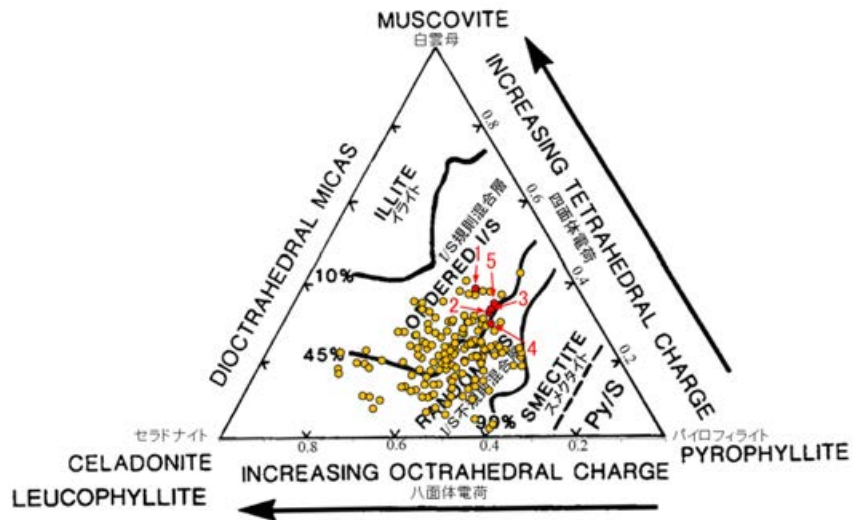


— 評価対象断層
S-O (陸域 EL-4.7m)

調査位置図



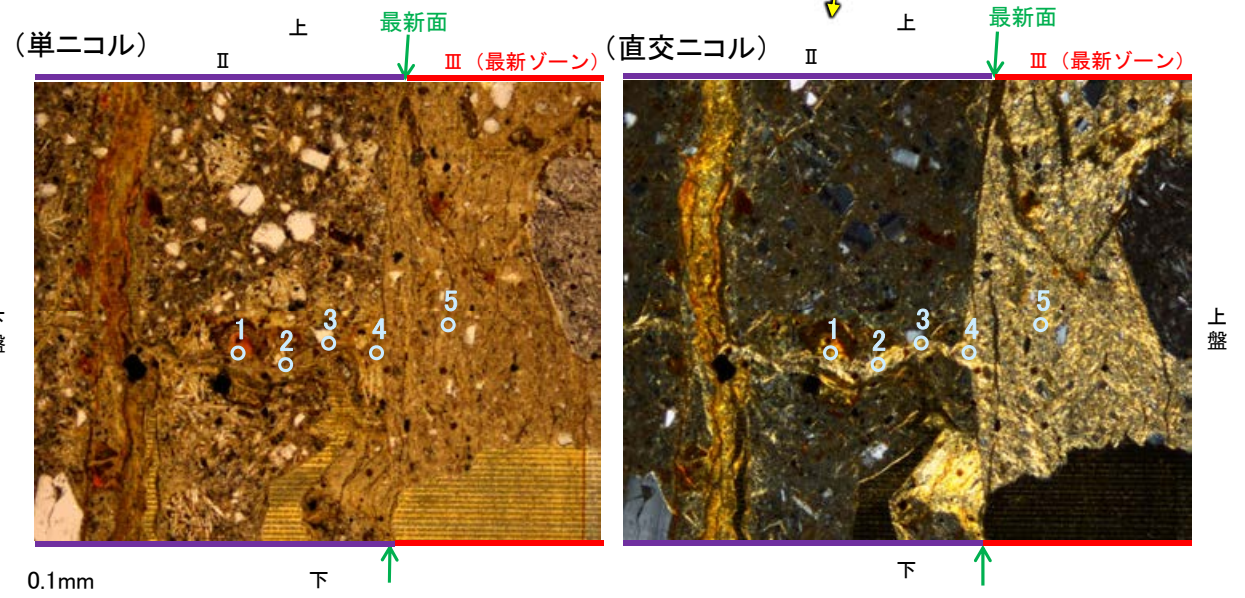
薄片写真(F-8.5'_140R_2)



・詳細は補足資料5.2-2(3)P.5.2-2-63

- 分析値(S-2・S-6 F-8.5' 孔)
- 分析番号位置は右図
- その他の分析値(敷地の粘土鉱物)

2八面体型雲母粘土鉱物及び関連鉱物の化学組成 (Srodon et al. (1984)に一部加筆)



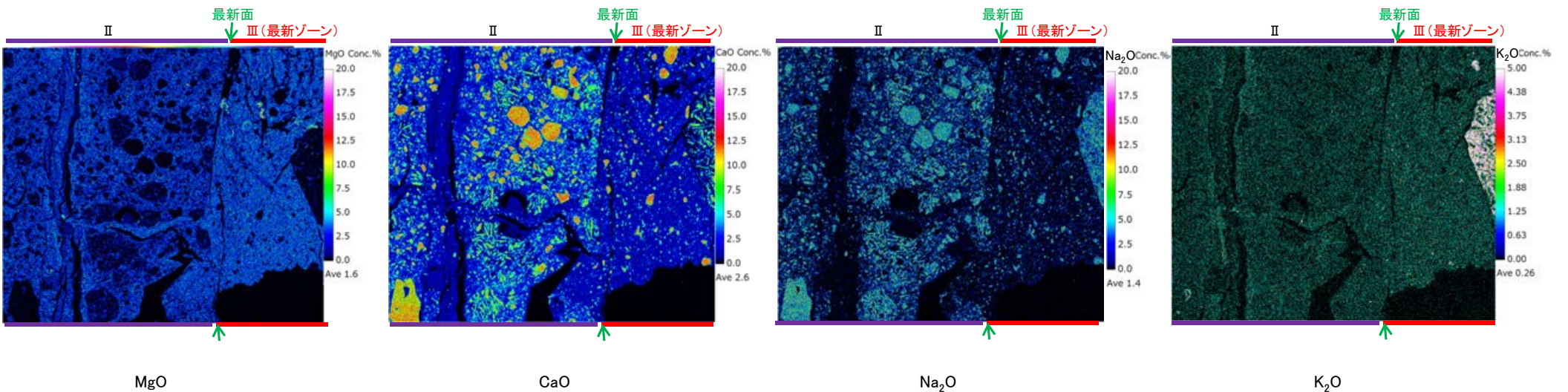
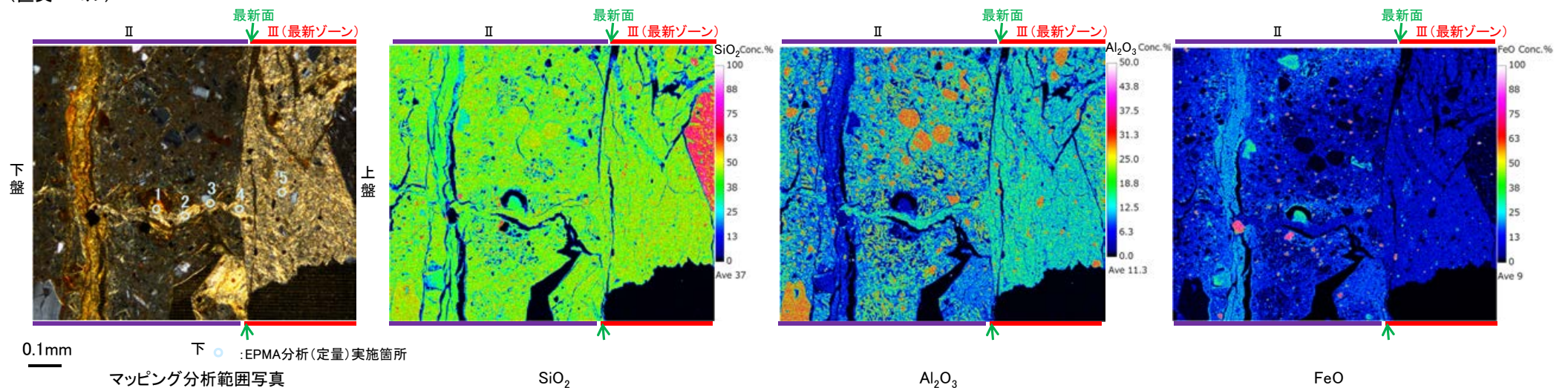
マッピング分析範囲写真

5.2.3 S-2・S-6 (2) F-8.5' 孔 ー変質鉱物の分布(EPMA分析(マッピング))ー

○EPMA分析(マッピング)を実施した結果, EPMA分析(定量)で認められたI/S混合層が最新ゾーンやその周辺に分布していることを確認した。

(直交ニコル)

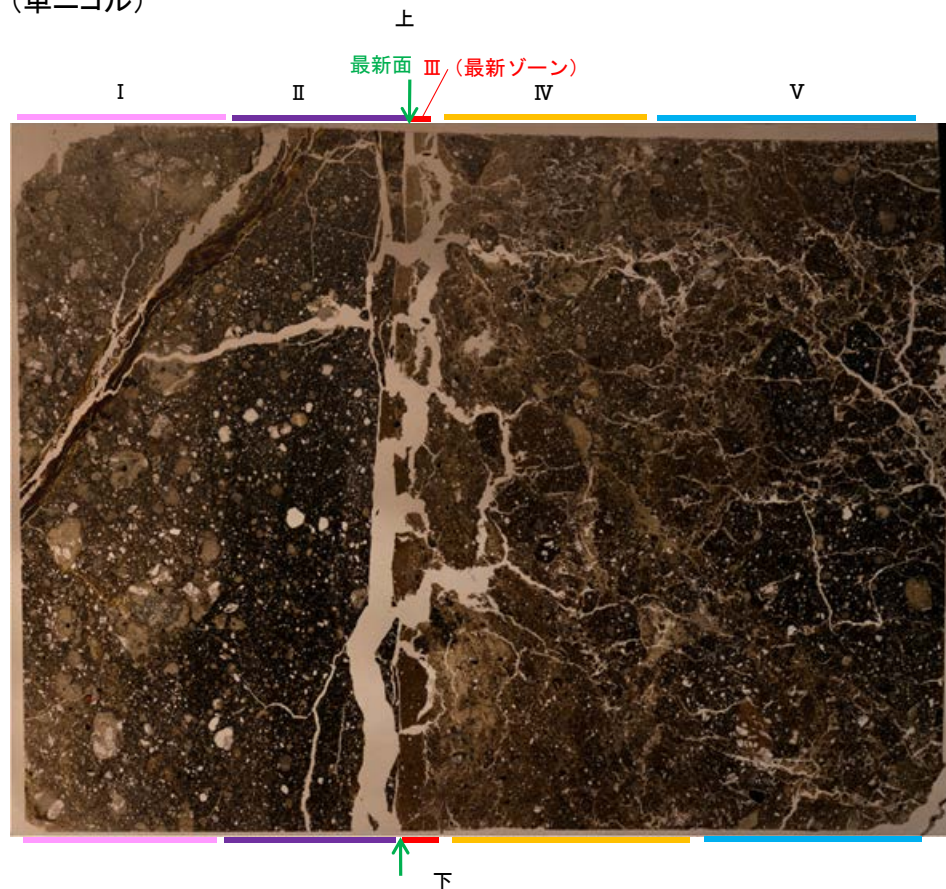
上



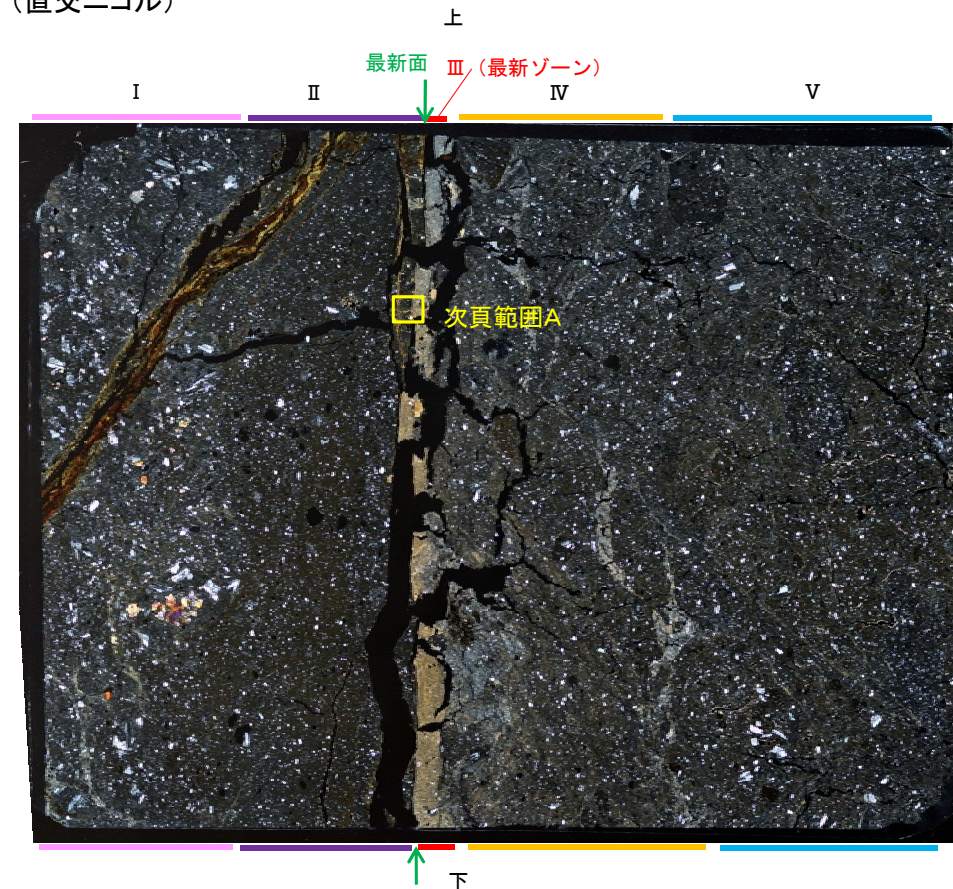
5.2.3 S-2・S-6 (2) F-8.5' 孔 ー変質鉱物の分布(薄片観察)ー

- 観察用薄片で実施した、薄片観察やEPMA分析(マッピング)における化学組成の観点での観察により、粘土鉱物(I/S混合層)の分布範囲を確認した結果、粘土鉱物(I/S混合層)は最新ゾーンやその周辺に分布している。
- この粘土鉱物(I/S混合層)と最新面との関係を確認する。

(単ニコル)



(直交ニコル)

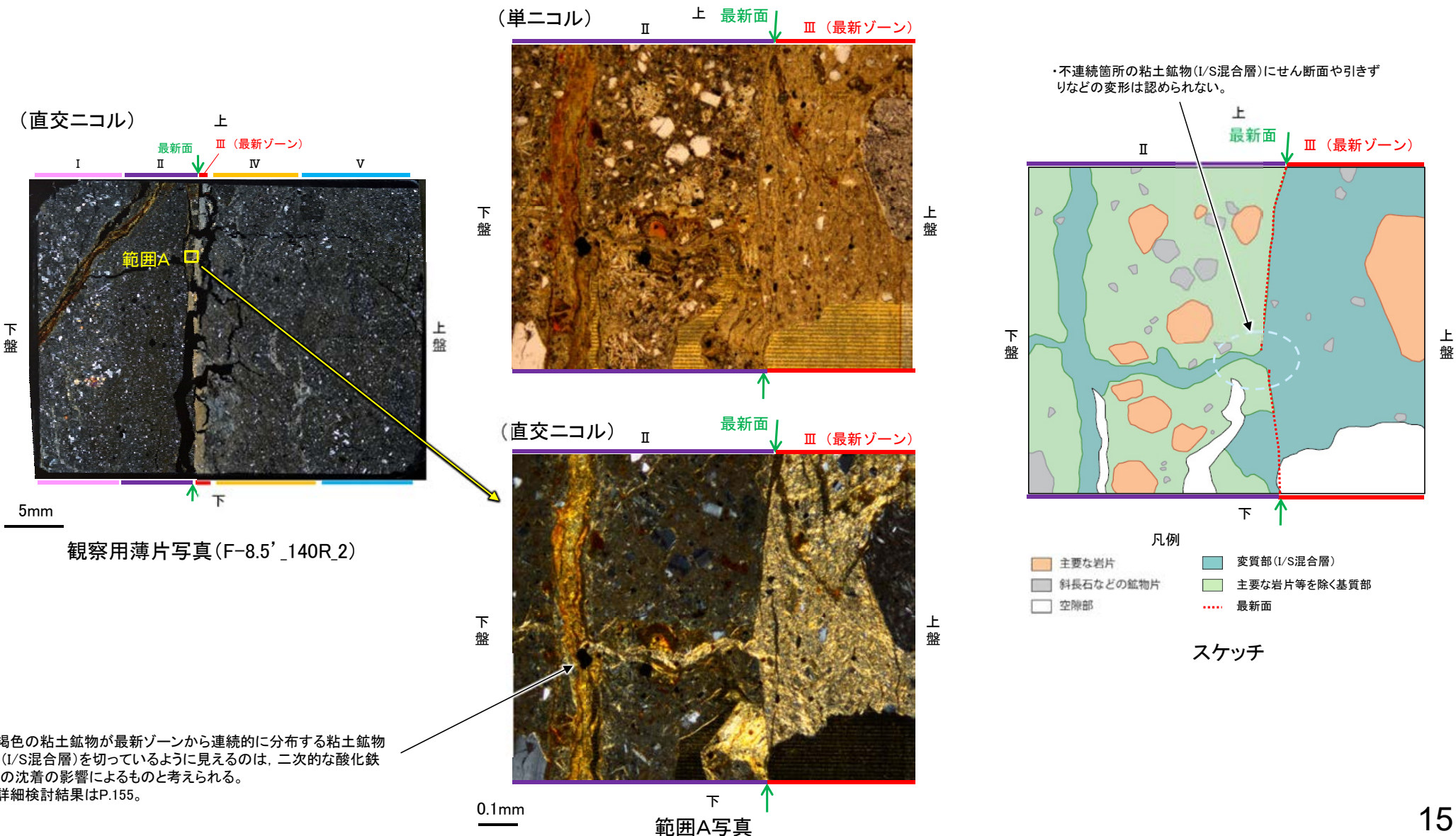


5mm

観察用薄片写真(F-8.5' _140R_2)

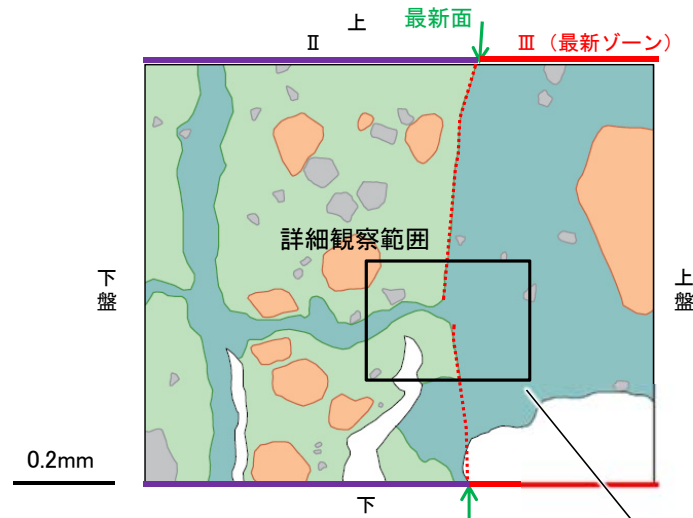
5.2.3 S-2・S-6 (2) F-8.5' 孔 ー最新面とI/S混合層との関係(範囲A)ー

- 範囲Aにおいて詳細に観察した結果、最新面付近には広く粘土鉱物(I/S混合層)が網目状に分布し、最新面が不明瞭かつ不連続になっており、不連続箇所(粘土鉱物(I/S混合層)にせん断面や引きずりなどの変形は認められない。
- なお、不連続箇所においてI/S混合層生成以降の注入現象の有無を確認した結果、弓状構造や粒子の配列などの注入の痕跡は認められない。
- さらに、薄片作成時等に生じた空隙は、明確に認定できる最新面が不連続になる箇所の粘土鉱物(I/S混合層)の構造に影響を与えていないことから、不連続箇所は薄片作成時等の乱れの影響を受けていないと判断できる(P.154)。



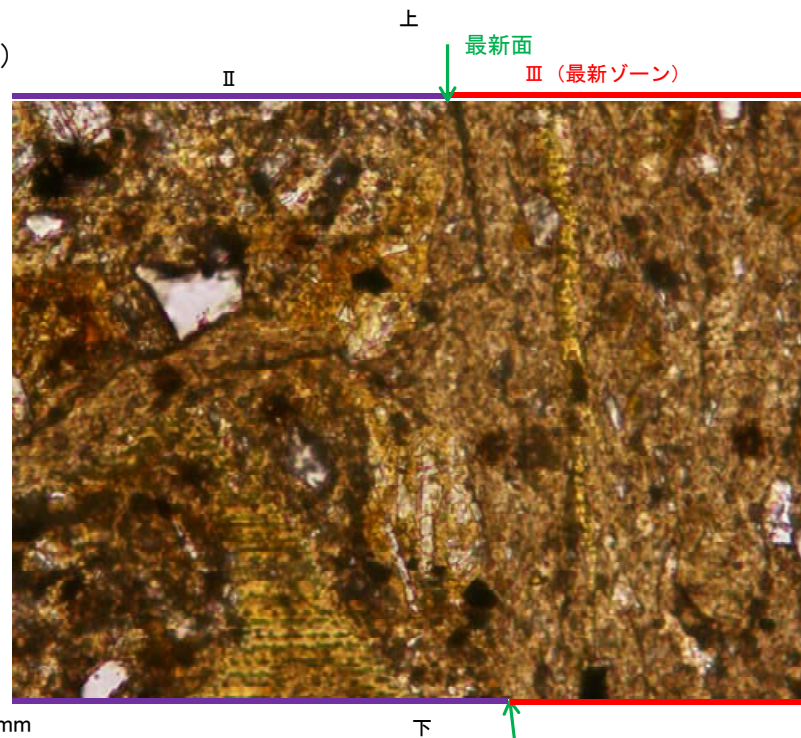
S-2・S-6_F-8.5' 孔

【詳細観察(範囲A)】

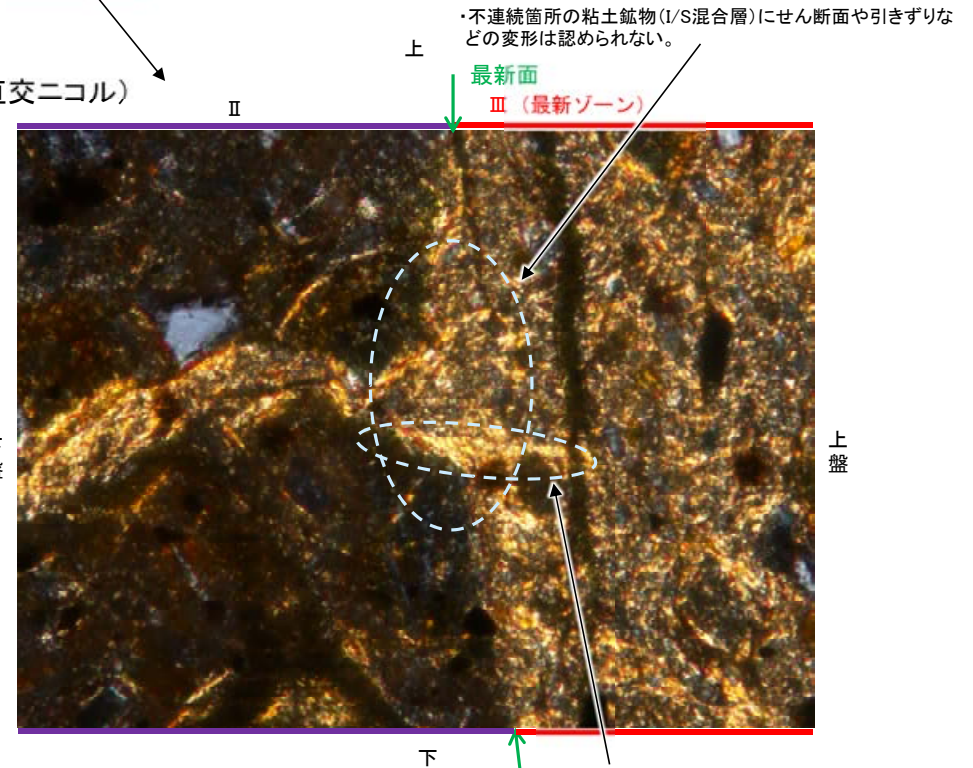


- 凡例
- 主要な岩片
 - 変質部(I/S混合層)
 - 斜長石などの鉱物片
 - 主要な岩片等を除く基質部
 - 空隙部
 - ⋯ 最新面

(単ニコル)



スケッチ (直交ニコル)



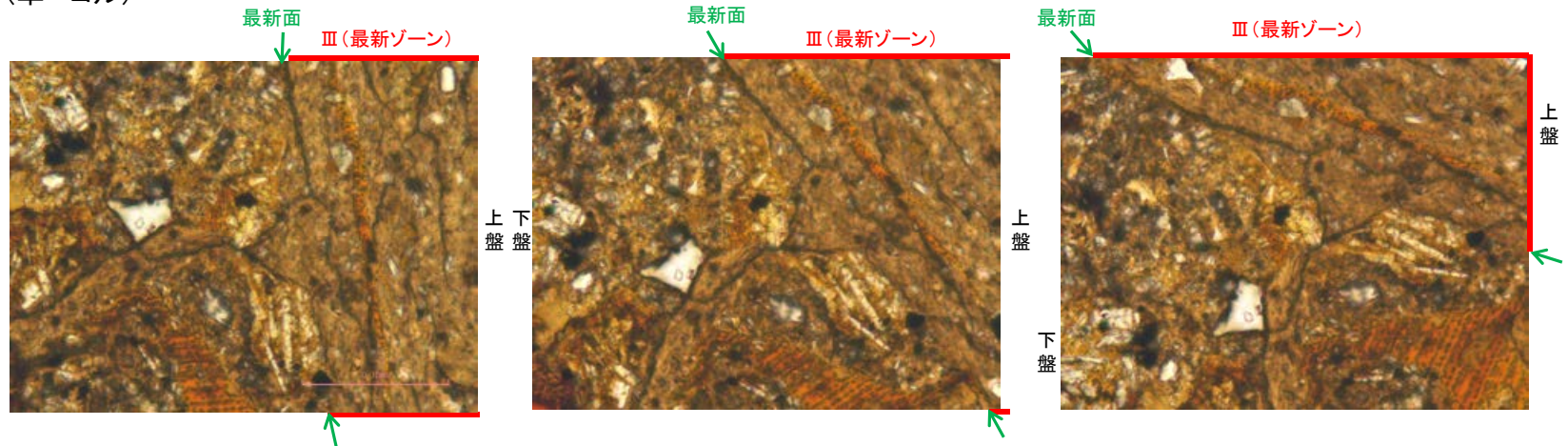
・粘土鉱物(I/S混合層)が最新面を横断しているように見える部分もある。

詳細観察範囲写真

S-2・S-6_F-8.5' 孔

【ステージ回転(範囲A)】

(単ニコル)



カリフォルニアの事例	阿寺断層の事例
注入面の壁に沿って凸状上向き の弓状構造が認められる	注入方向に粒子の配列が認 められる

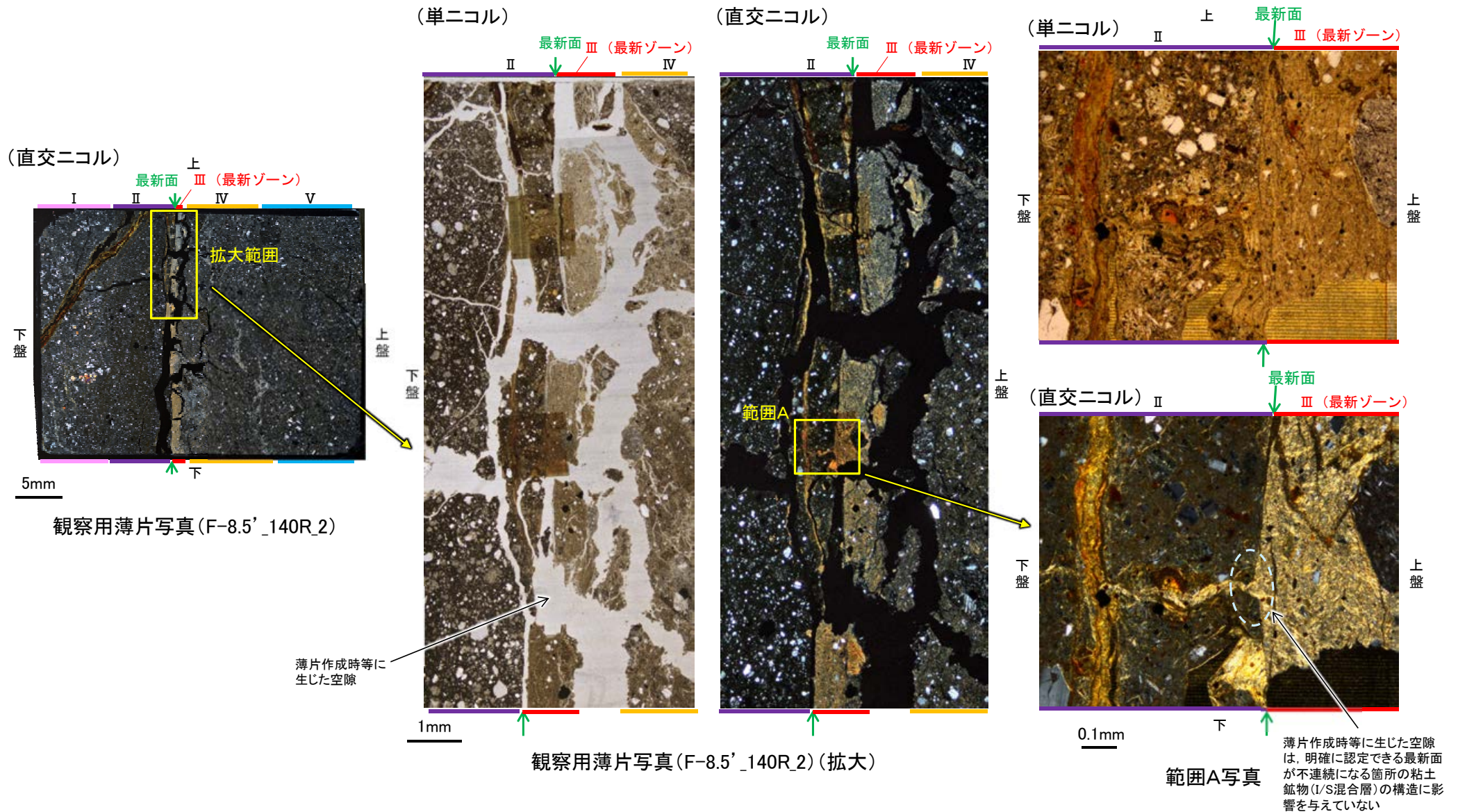
注入現象の事例
(関西電力株式会社, 2016)

(直交ニコル)



- ・不連続箇所(粘土鉱物(I/S混合層)にせん断面や引きずり
などの変形は認められない。
- ・注入の痕跡は認められない。

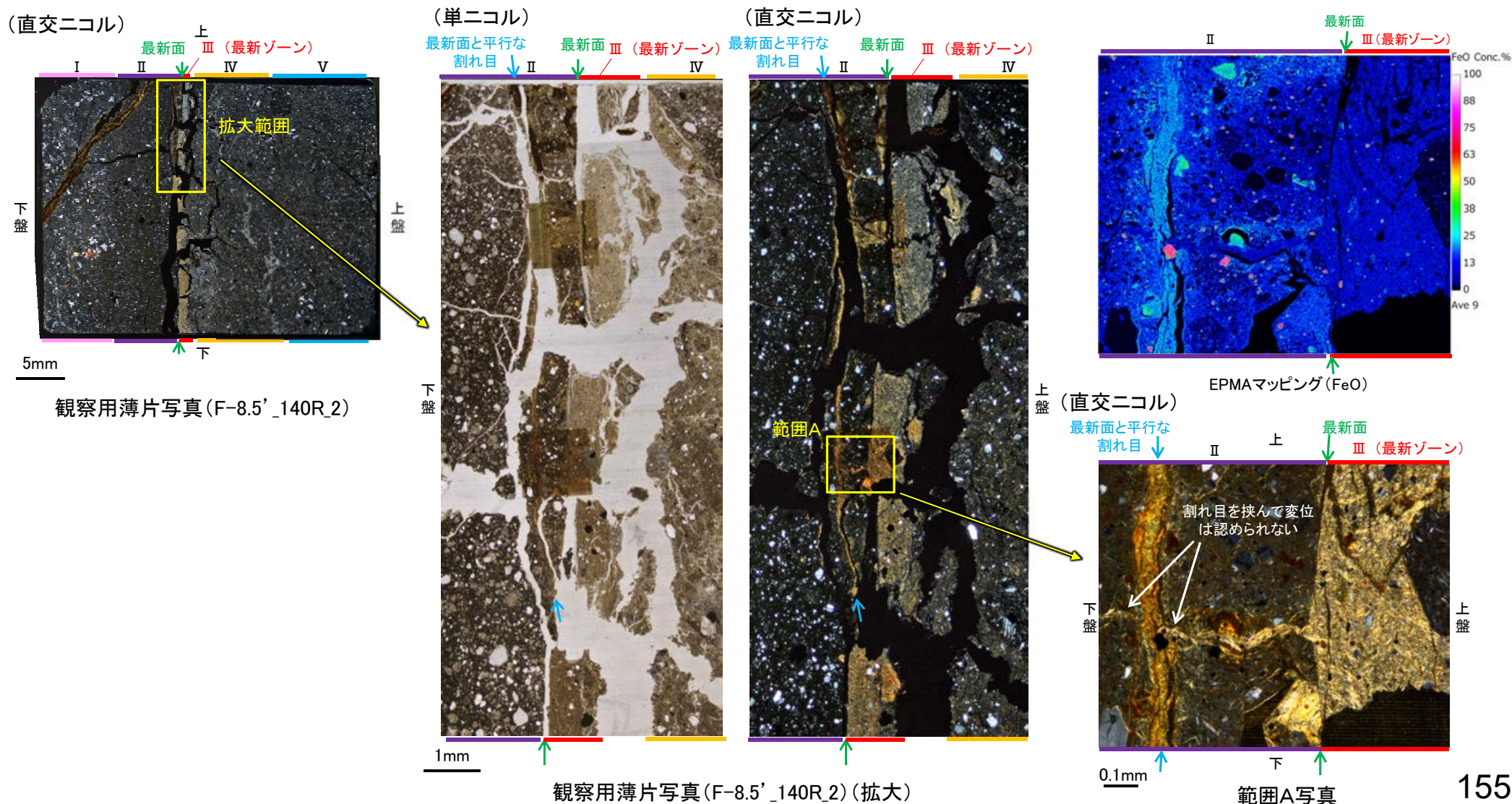
【乱れに関する検討(範囲A)】



・薄片作成時等に生じた空隙(単ニコルの白色部)は、明確に認定できる最新面が不連続になる箇所の粘土鉱物(I/S混合層)の構造に影響を与えていないことから、不連続箇所は薄片作成時等の乱れの影響を受けていないと判断できる。

5.2.3 S-2・S-6 (2) F-8.5' 孔 (補足) — 最新面と平行な割れ目についての検討 —

- 観察用薄片で実施した微視的観察(薄片観察)の結果、薄片上部において分帯Ⅱ中に最新面と平行な割れ目が発達するが、凹凸し直線性に乏しく、薄片中央部で最新面に収斂している。
- また、この割れ目を充填する褐色の粘土鉱物が、最新ゾーンから連続的に分布する粘土鉱物(I/S混合層)を切っているように観察されるが、割れ目を挟んで両側に分布する粘土鉱物(I/S混合層)に変位は認められず、さらに褐色の粘土鉱物内には変形構造は認められない。
- EPMA分析(マッピング)結果によると、褐色の粘土鉱物からは最新ゾーン内の粘土鉱物(I/S混合層)よりもFeOが相対的に高い。
- 以上のことを踏まえると、最新面と平行に発達する割れ目はせん断面ではなく、褐色の粘土鉱物が最新ゾーンから連続的に分布する粘土鉱物(I/S混合層)を切っているように見えるのは、二次的な酸化鉄の沈着の影響によるものと考えられる。



5.2.3 S-2・S-6 (3) E-8.5-2孔 ー評価結果ー

【最新面の認定】

○E-8.5-2孔の深度8.55m付近で認められるS-2・S-6において、巨視的観察及び微視的観察を実施し、最新ゾーンの上盤側の境界に最新面を認定した(P.157～160)。

【鉱物の同定】

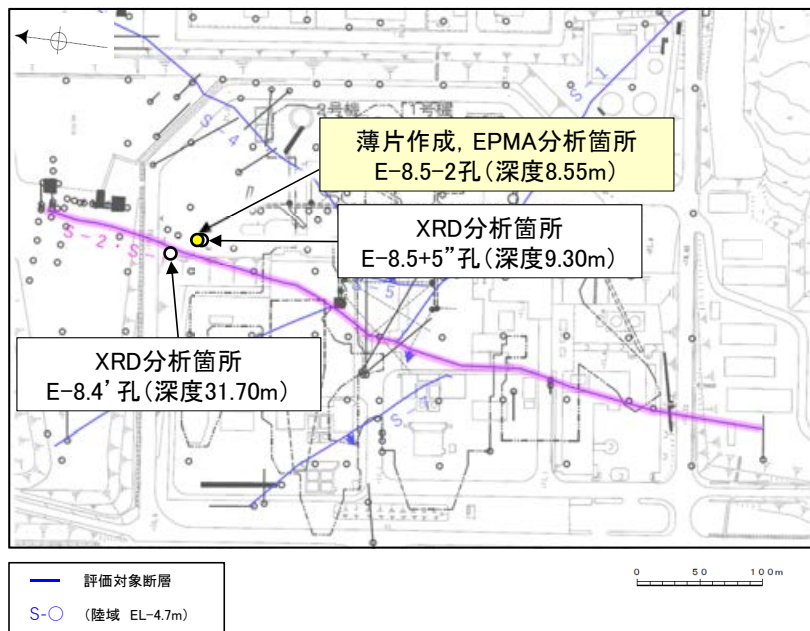
○微視的観察により確認した粘土鉱物は、EPMA分析(定量)による化学組成の検討結果及びXRD分析(粘土分濃集)による結晶構造判定結果から、I/S混合層であると判断される(P.161, 162)。

【変質鉱物の分布と最新面との関係】

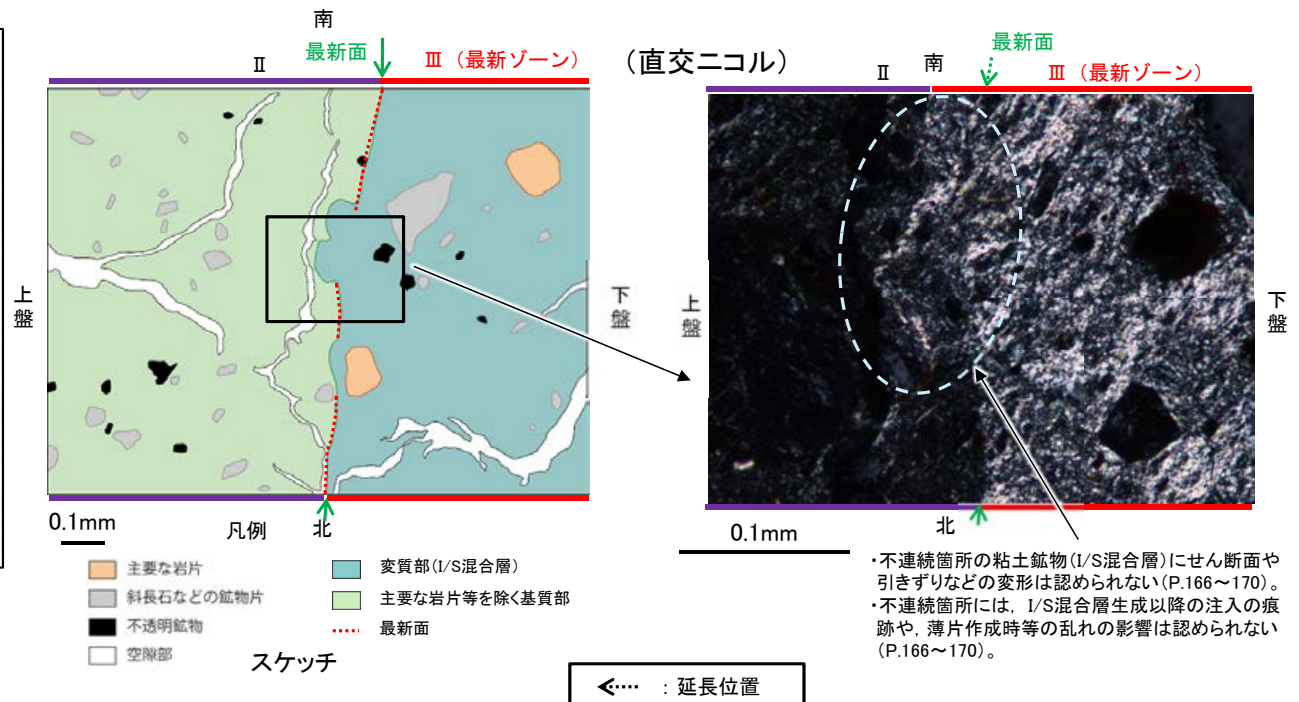
○EPMA分析(マッピング)や薄片観察により、粘土鉱物(I/S混合層)の分布範囲を確認した結果、粘土鉱物(I/S混合層)は最新ゾーン及びその周辺に分布している(P.163～165)。

○最新面付近には広く粘土鉱物(I/S混合層)が網目状に分布し、最新面が不明瞭かつ不連続になっており、不連続箇所の粘土鉱物(I/S混合層)に変位・変形は認められない(P.166～170)。

○以上のことを踏まえると、S-2・S-6の最新活動は、I/S混合層の生成以前である。



調査位置図

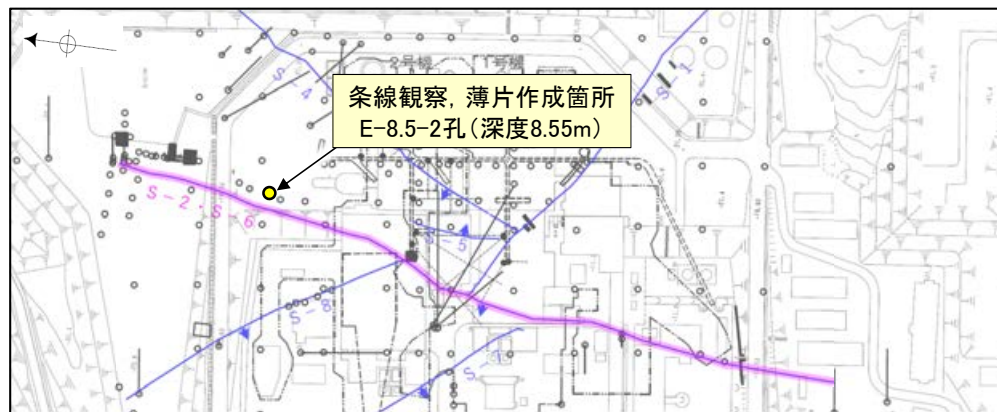


・不連続箇所の粘土鉱物(I/S混合層)にせん断面や引きずりなどの変形は認められない(P.166～170)。
 ・不連続箇所には、I/S混合層生成以降の注入の痕跡や、薄片作成時等の乱れの影響は認められない(P.166～170)。

5.2.3 S-2・S-6 (3) E-8.5-2孔 ー最新面の認定(巨視的観察)ー

○E-8.5-2孔の深度8.55m付近で認められるS-2・S-6において、巨視的観察(ボーリングコア観察, CT画像観察)を実施し、最も直線性・連続性がよい断層面を主せん断面として抽出した。

○主せん断面における条線観察の結果, 105° R, 160° Rの条線方向が確認されたことから, 鉛直(90° R), 水平(0° R)で薄片を作成した(ブロック写真)。



・条線観察結果については補足資料5.2-12(2)-2

※1: 図示した箇所観察用薄片を作成し, そこから1mm程度削り込んだ位置でEPMA用薄片を作成した。

※2: 90° Rの薄片で実施した微視的観察結果については第875回審査会合机上配布資料1 5.2-4(1)-3

(深度) 8.50 8.60 8.70 8.75 (m)

走向傾斜:
N8° E/51° NW

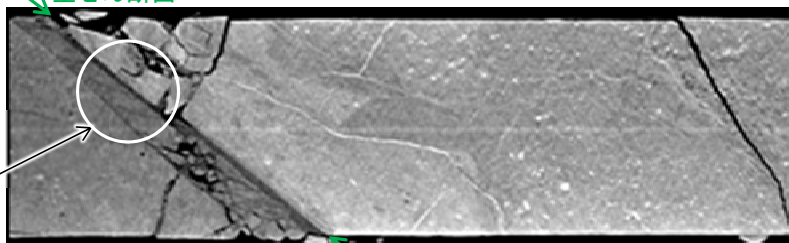
— 粘土状破碎部
— 固結した破碎部

上
右ブロック
採取箇所

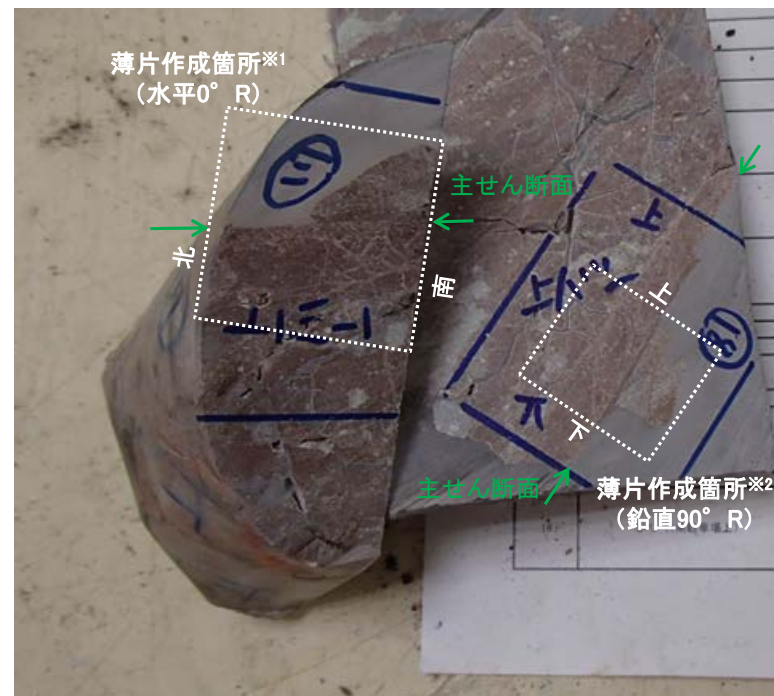


ボーリングコア写真(E-8.5-2孔)

上
右ブロック
採取箇所



CT画像(E-8.5-2孔)



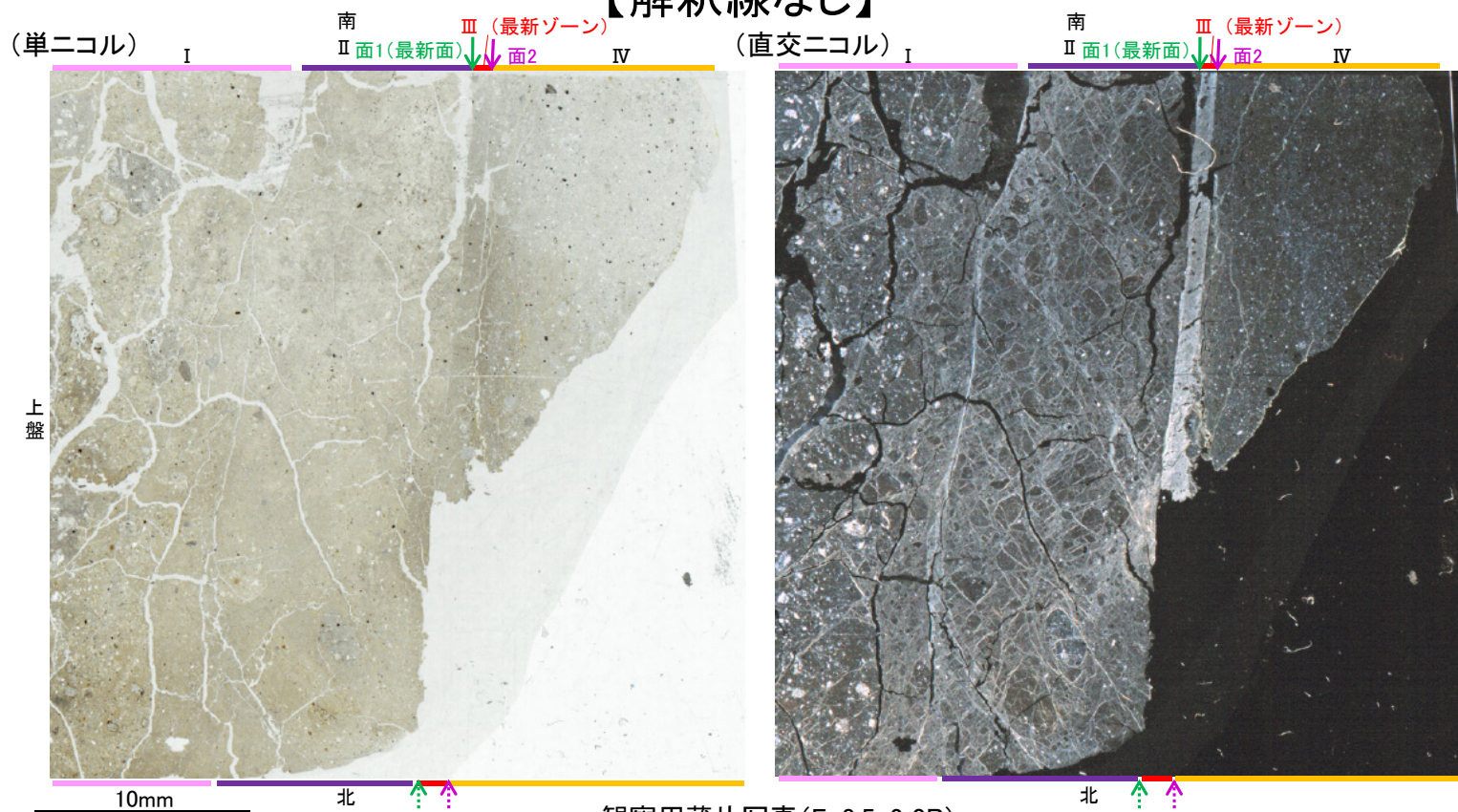
ブロック写真

5.2.3 S-2・S-6 (3) E-8.5-2孔 ー最新面の認定(微視的観察)ー

- 観察用薄片(0° R)で実施した微視的観察(薄片観察)の結果, 色調や礫径などから, 上盤側よりⅠ～Ⅳに分帯される。
- そのうち, 最も細粒化している分帯Ⅲを最新ゾーンとして抽出した。
- 最新ゾーンと分帯Ⅱとの境界に, 面1(緑矢印)が認められる。面1は最新ゾーンの中では比較的直線性・連続性がよい面である。
- 最新ゾーンと分帯Ⅳとの境界に, 面2(紫矢印)が認められる。面2は薄片上部では直線的・連続的に観察されるが, 薄片中央では不明瞭で漸移的となる※。
- 最新ゾーンの中で最も直線性・連続性のよい面1を最新面と認定し, 変質鉱物との関係を確認する。

【解釈線なし】

※最新ゾーンと分帯Ⅳとの境界についての詳細は次々頁



分帯とコア観察における破碎区分との対応
 ・分帯Ⅲ(最新ゾーン) ……粘土状破碎部
 ・分帯Ⅰ, 分帯Ⅱ, 分帯Ⅳ ……固結した破碎部

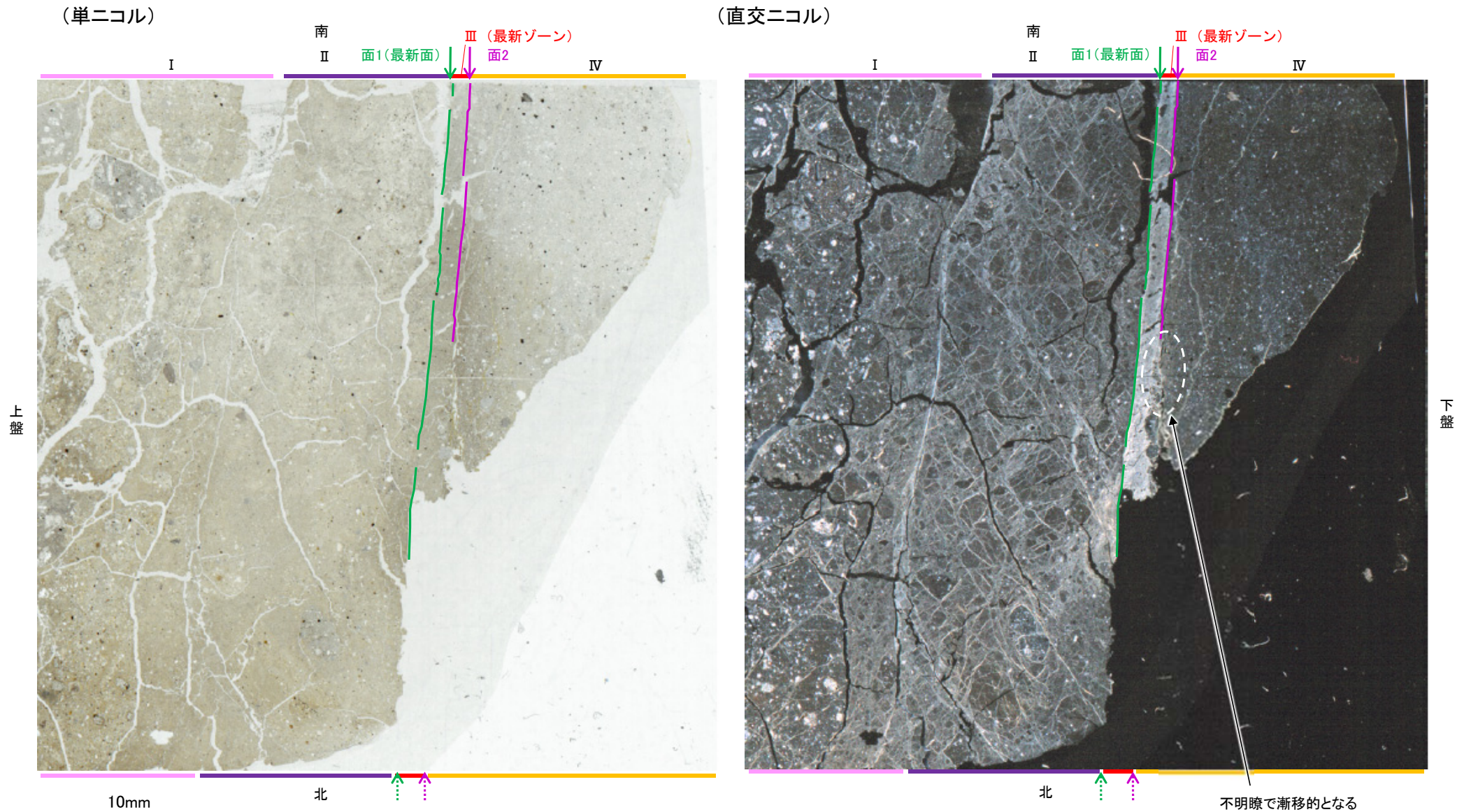
◀… : 延長位置

観察用薄片写真(E-8.5-2.0R)

- Ⅰ: 単ニコルで褐灰～暗灰色, 直交ニコルで灰色の干渉色を呈する火山礫凝灰岩からなる。径4mm以下の岩片が細粒な基質に含まれる。岩片は垂角～垂円形である。基質中や割れ目, 岩片の縁辺部に粘土鉱物が生成されている。
- Ⅱ: 単ニコルで褐灰～灰色, 直交ニコルで灰色の干渉色を呈する火山礫凝灰岩からなる。径3mm以下の岩片が細粒な基質に含まれる。岩片は角～垂円形である。基質中や割れ目, 岩片の縁辺部に粘土鉱物が生成されている。
- Ⅲ(最新ゾーン): 単ニコルで褐灰～灰色, 直交ニコルで白色の干渉色を呈する, 粘土鉱物を含む細粒物からなる。径0.5mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質に含まれる。岩片は垂角～垂円形, 鉱物片は角～垂角形である。基質中に粘土鉱物が生成されている。
- Ⅳ: 単ニコルで褐灰～灰色, 直交ニコルで灰～暗灰色の干渉色を呈する凝灰岩からなる。径1mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質に含まれる。岩片は角～垂円形, 鉱物片は垂角形である。基質中や割れ目, 岩片の縁辺部に粘土鉱物が生成されており, Ⅲとの境界付近に比較的多く含まれる。

S-2・S-6_E-8.5-2孔

【解釈線あり】

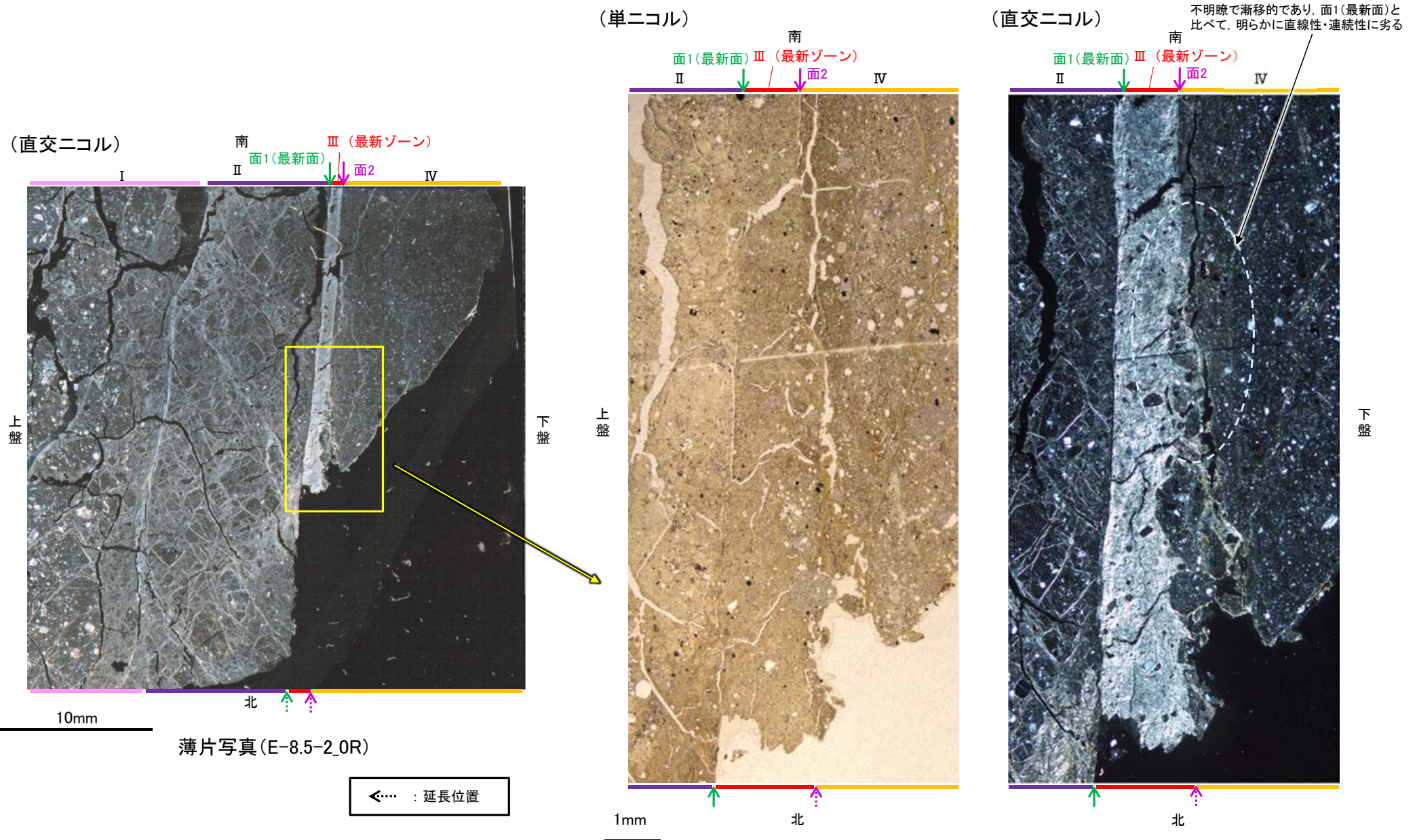


観察用薄片写真(E-8.5-2_OR)

←… : 延長位置

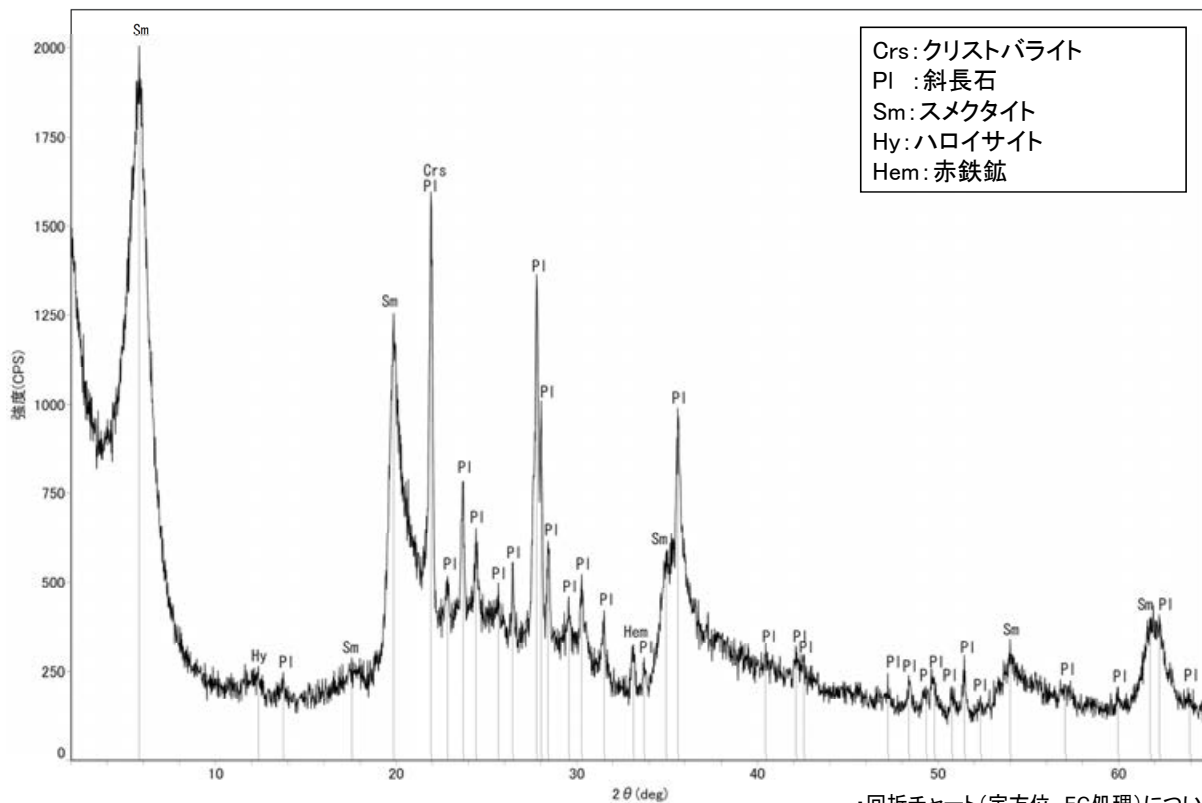
5.2.3 S-2・S-6 (3) E-8.5-2孔 -最新ゾーンと分帯IVとの境界-

○観察用薄片(0° R)で実施した微視的観察(薄片観察)の結果, 面2は薄片中央では不明瞭で漸移的となり, 薄片全体で直線性・連続性がよい面1(最新面)と比べて, 明らかに直線性・連続性に劣っていることから, 面2は最新面ではないと判断される。



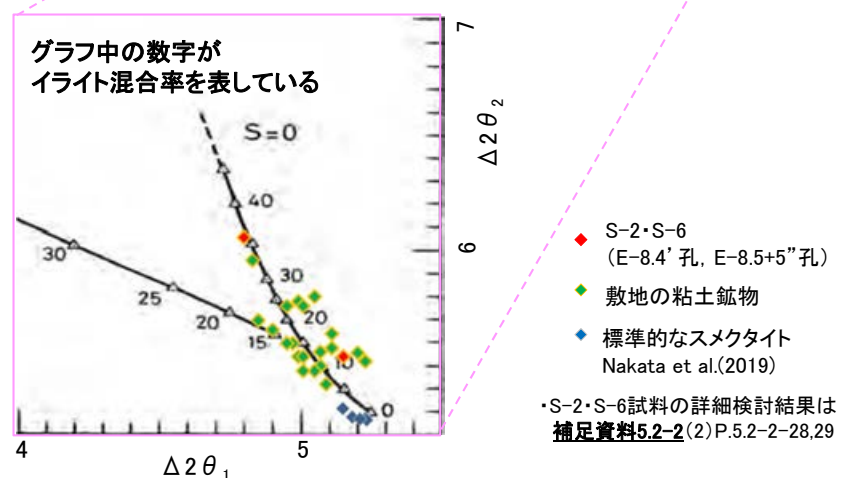
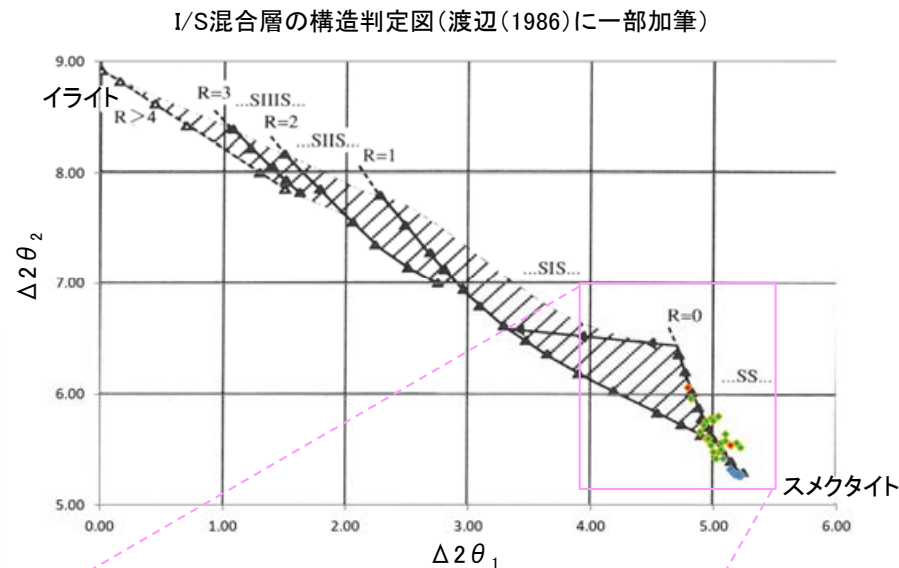
5.2.3 S-2・S-6 (3) E-8.5-2孔 - 鉱物の同定(XRD分析) -

- 最新ゾーン付近でXRD分析を実施した結果, 主な粘土鉱物としてスメクタイトが認められる。
- スメクタイトについて詳細な結晶構造判定を行うために, 同一断層の別孔(E-8.4' 孔, E-8.5+5" 孔)の破砕部においてXRD分析(粘土分濃集)を実施した結果, I/S混合層と判定される。



回折チャート(不定方位)

・回折チャート(定方位, EG処理)については, 補足資料5.2-12(1) P.5.2-12-19

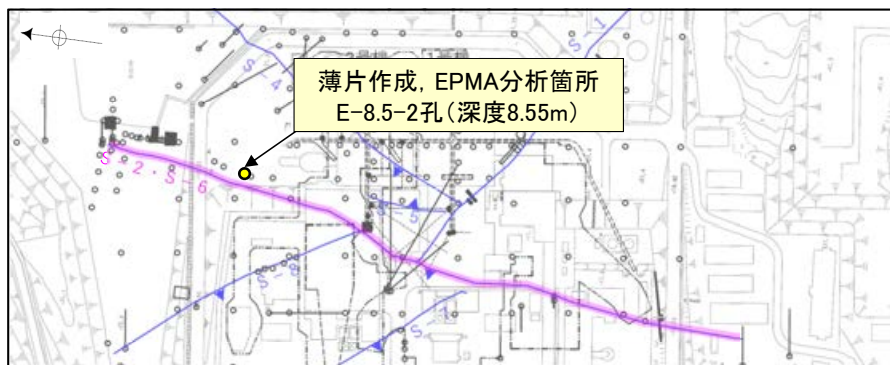


I/S混合層の構造判定図(渡辺(1981)に一部加筆)

・S-2・S-6試料の詳細検討結果は 補足資料5.2-2(2) P.5.2-2-28,29

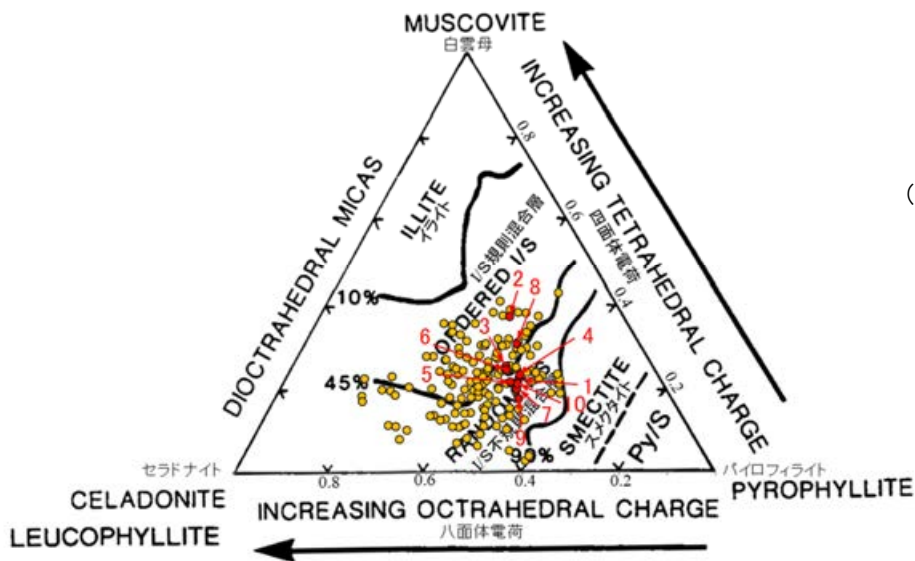
5.2.3 S-2・S-6 (3) E-8.5-2孔 — 鉱物の同定(EPMA分析(定量)) —

○EPMA用薄片で実施したEPMA分析(定量)による化学組成の検討結果から、最新ゾーンやその周辺に分布する粘土鉱物はI/S混合層であると判断される。



— 評価対象断層
S-O (陸域 EL-4.7m)

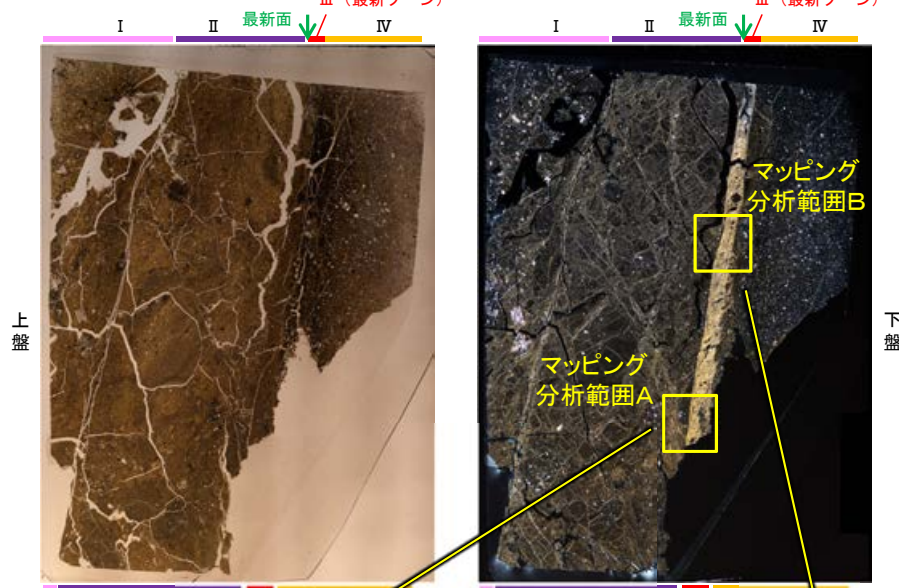
調査位置図



● 分析値(S-2・S-6,E-8.5-2孔)
● 分析番号位置は右図
● その他の分析値(敷地の粘土鉱物)

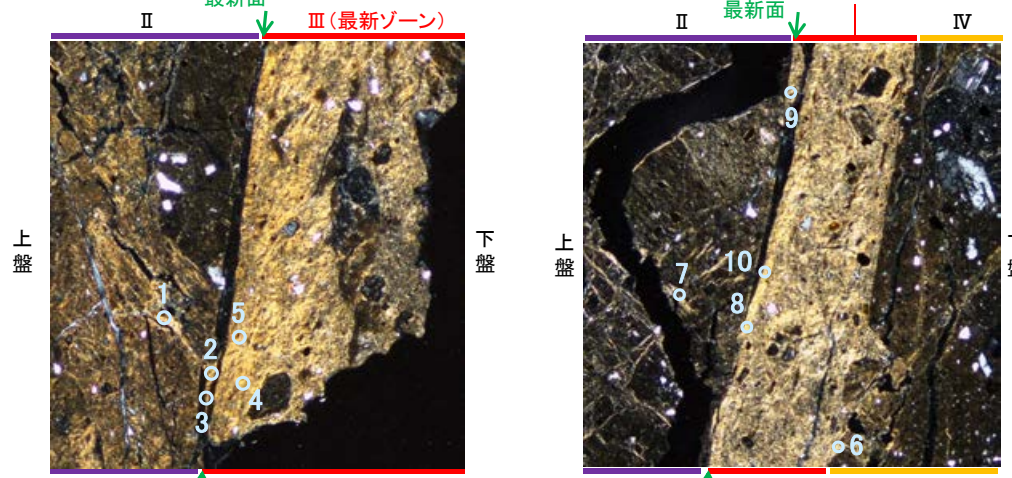
2八面体型雲母粘土鉱物及び関連鉱物の化学組成 (Srodon et al. (1984))に一部加筆

(単ニコル) 南 III (最新ゾーン) (直交ニコル) 南 III (最新ゾーン)



EPMA用薄片※写真
※観察用薄片(0° R)を作成した箇所から1mm程度削り込んだ位置で作成した

(直交ニコル) 南 III (最新ゾーン) (直交ニコル) 南 III (最新ゾーン)

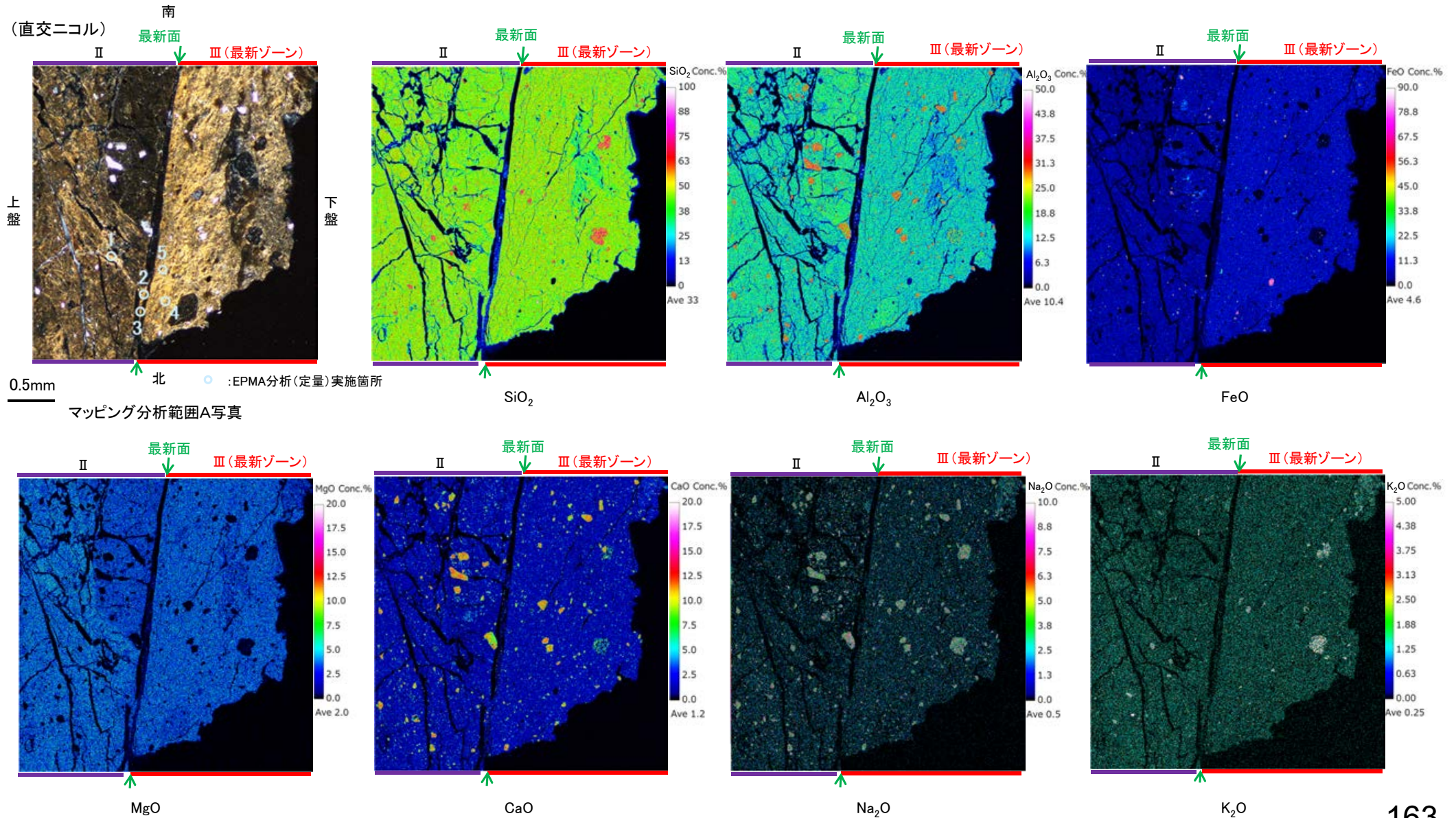


マッピング分析範囲A写真
マッピング分析範囲B写真

5.2.3 S-2・S-6 (3) E-8.5-2孔 ー変質鉱物の分布(EPMA分析(マッピング))ー

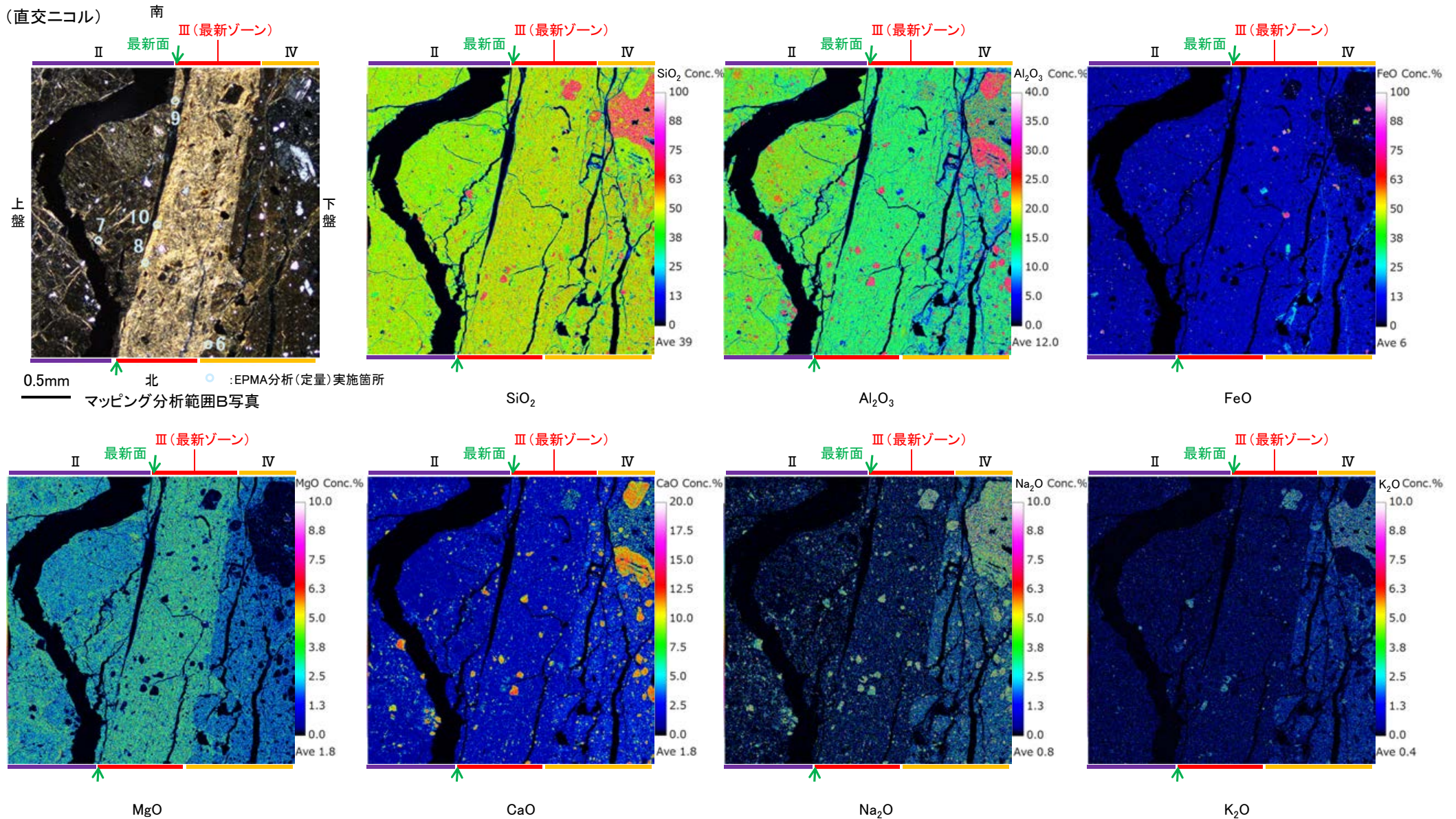
○EPMA用薄片でEPMA分析(マッピング)を実施した結果, EPMA分析(定量)で認められたI/S混合層が最新ゾーンやその周辺に分布していることを確認した。

【マッピング分析範囲A】



S-2・S-6_E-8.5-2孔

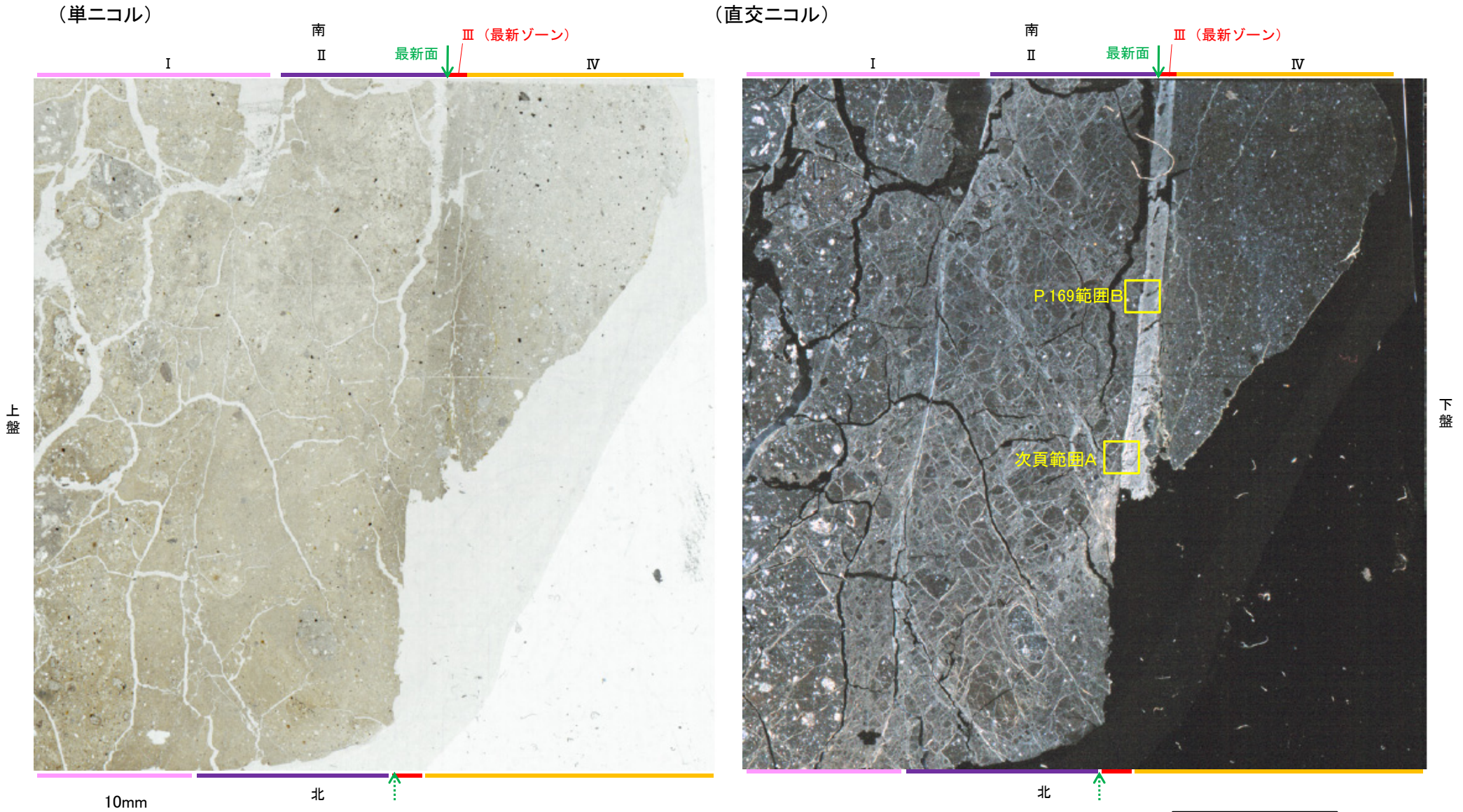
【マッピング分析範囲B】



・EPMA用薄片でEPMA分析(マッピング)を実施した結果、EPMA分析(定量)で認められたI/S混合層が最新ゾーンやその周辺に分布していることを確認した。

5.2.3 S-2・S-6 (3) E-8.5-2孔 ー変質鉱物の分布(薄片観察)ー

○観察用薄片で実施した薄片観察や、EPMA用薄片で実施したEPMA分析(マッピング)における化学組成の観点での観察により、粘土鉱物(I/S混合層)の分布範囲を確認した結果、粘土鉱物(I/S混合層)は最新ゾーンやその周辺に分布している。
○この粘土鉱物(I/S混合層)と最新面との関係を確認する。

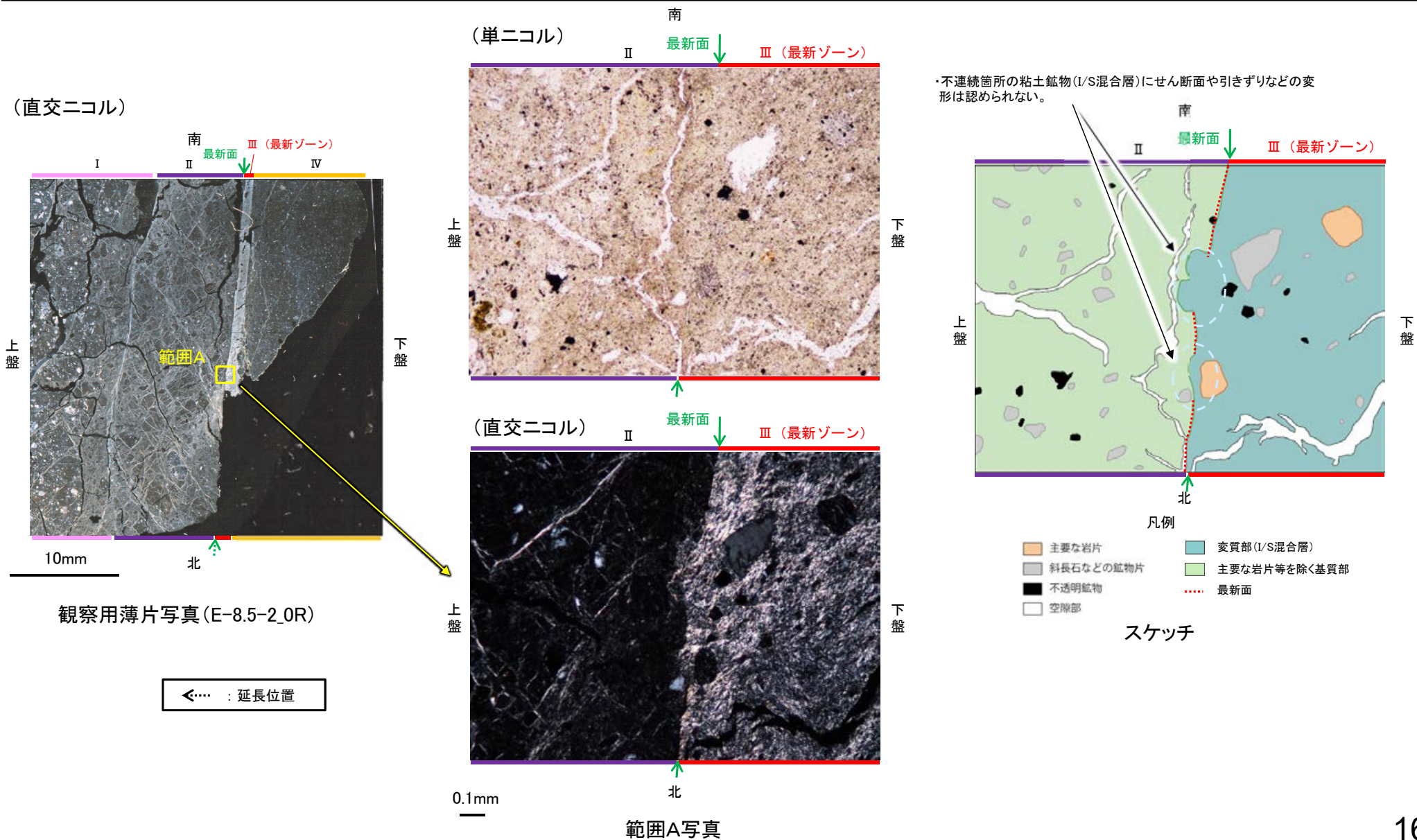


観察用薄片写真(E-8.5-2_0R)

←… : 延長位置

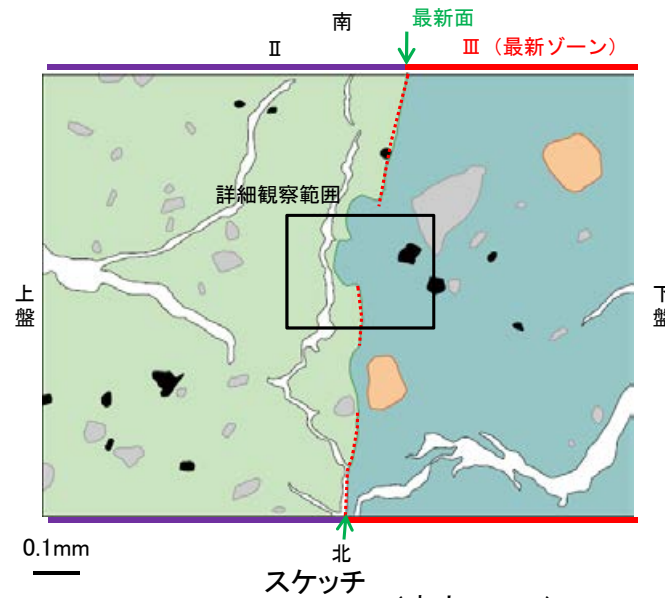
5.2.3 S-2・S-6 (3) E-8.5-2孔 ー最新面とI/S混合層との関係(範囲A)ー

- 範囲Aにおいて詳細に観察した結果、最新面付近には広く粘土鉱物(I/S混合層)が網目状に分布し、最新面が不明瞭かつ不連続になっており、不連続箇所の粘土鉱物(I/S混合層)にせん断面や引きずりなどの変形は認められない。
- なお、不連続箇所においてI/S混合層生成以降の注入現象の有無を確認した結果、弓状構造や粒子の配列などの注入の痕跡は認められない。
- さらに、薄片作成時等に生じた空隙は、明確に認定できる最新面が不連続になる箇所の粘土鉱物(I/S混合層)の構造に影響を与えていないことから、不連続箇所は薄片作成時等の乱れの影響を受けていないと判断できる。



S-2・S-6_E-8.5-2孔

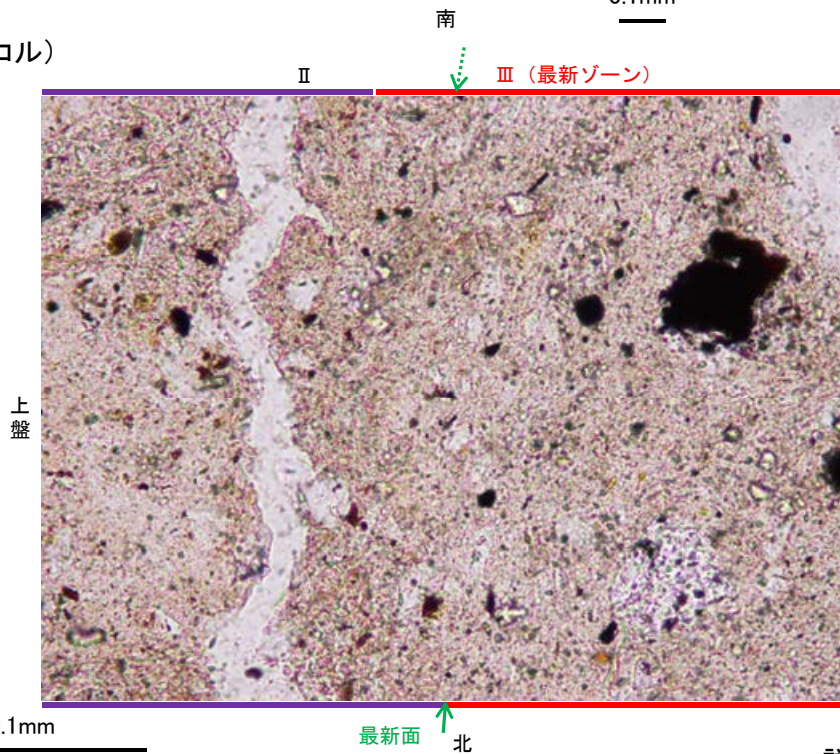
【詳細観察(範囲A)】



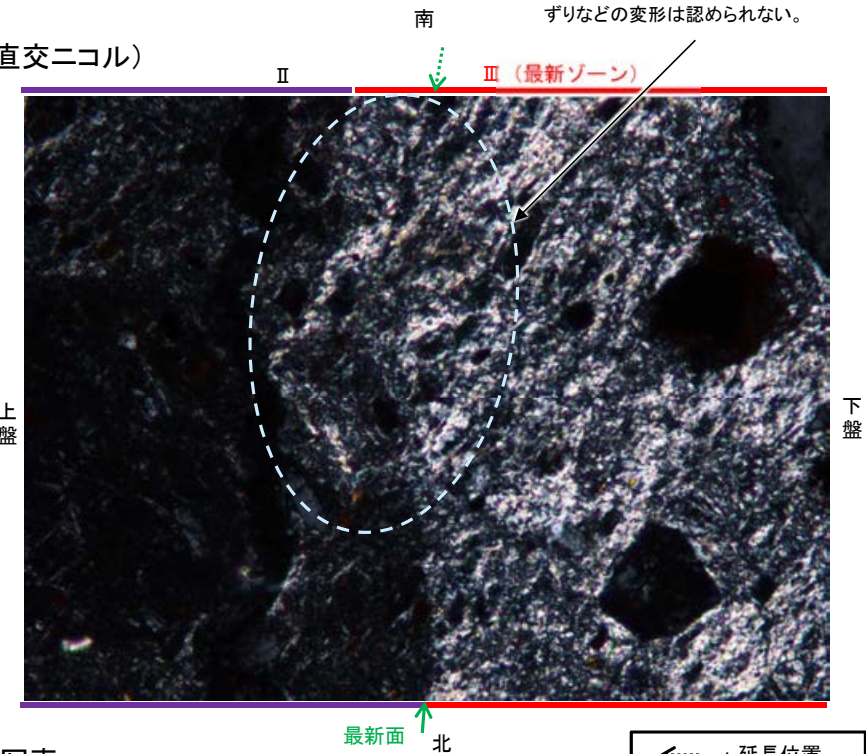
- 凡例
- 主要な岩片
 - 斜長石などの鉱物片
 - 不透明鉱物
 - 空隙部
 - 変質部 (I/S混合層)
 - 主要な岩片等を除く基質部
 - 最新面

・不連続箇所(粘土鉱物(I/S混合層)にせん断面や引きずりなどの変形は認められない。

(単ニコル)



(直交ニコル)



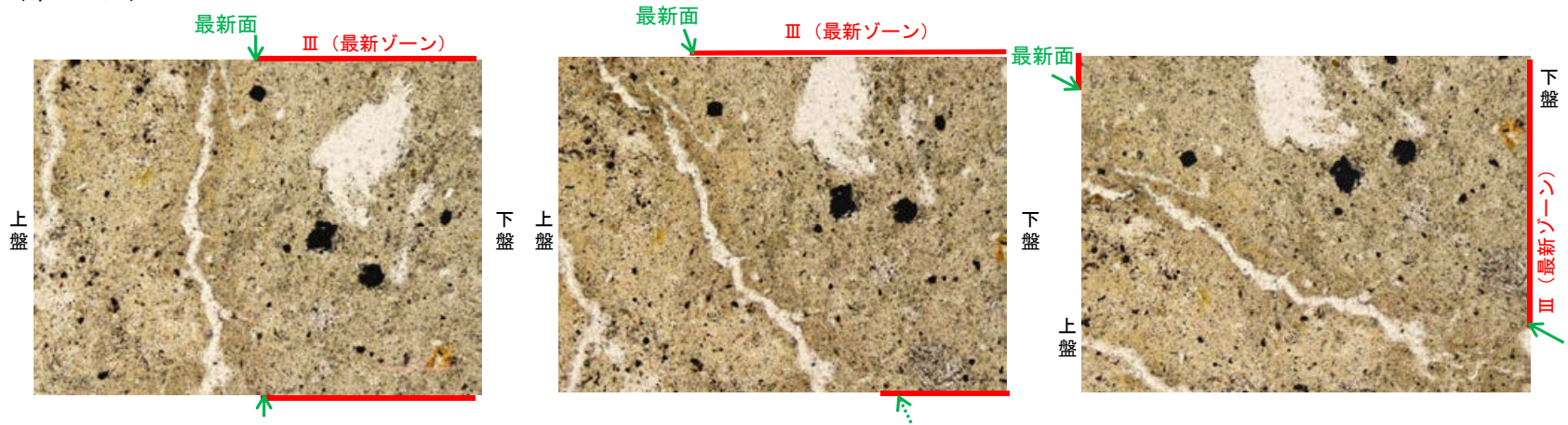
詳細観察範囲写真

◀... : 延長位置

S-2・S-6_E-8.5-2孔

【ステージ回転(範囲A)】

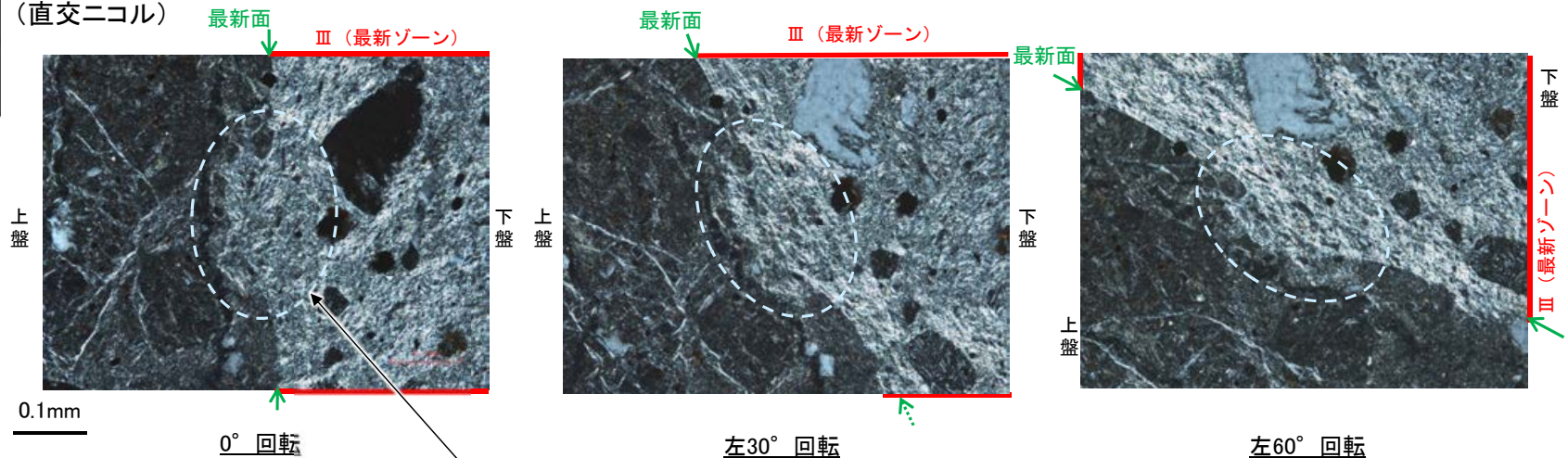
(単ニコル)



カリフォルニアの事例	阿寺断層の事例
注入方向	注入方向
注入面の壁に沿って凸状上向き の弓状構造が認められる	注入方向に粒子の配列が認 められる

注入現象の事例
(関西電力株式会社, 2016)

(直交ニコル)

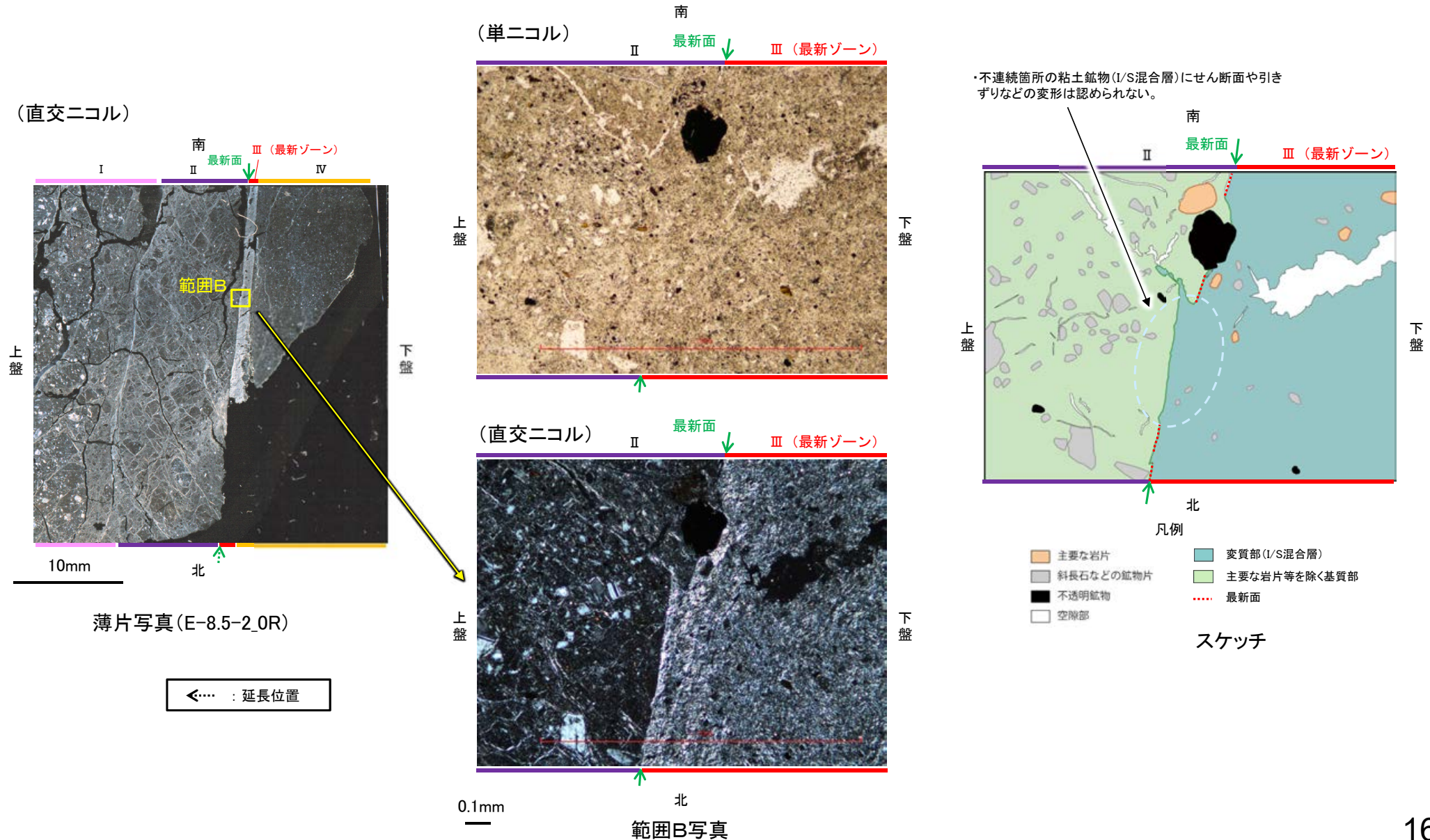


- ・不連続箇所の粘土鉱物(I/S混合層)にせん断面や引きずり
などの変形は認められない。
- ・注入の痕跡は認められない。

◀... : 延長位置

5.2.3 S-2・S-6 (3) E-8.5-2孔 ー最新面とI/S混合層との関係(範囲B)ー

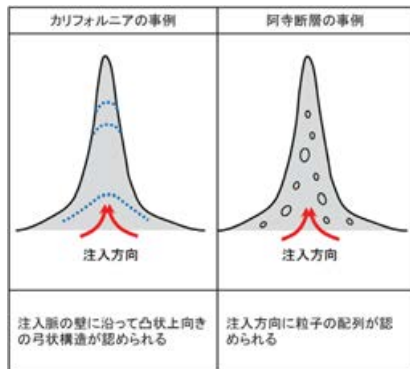
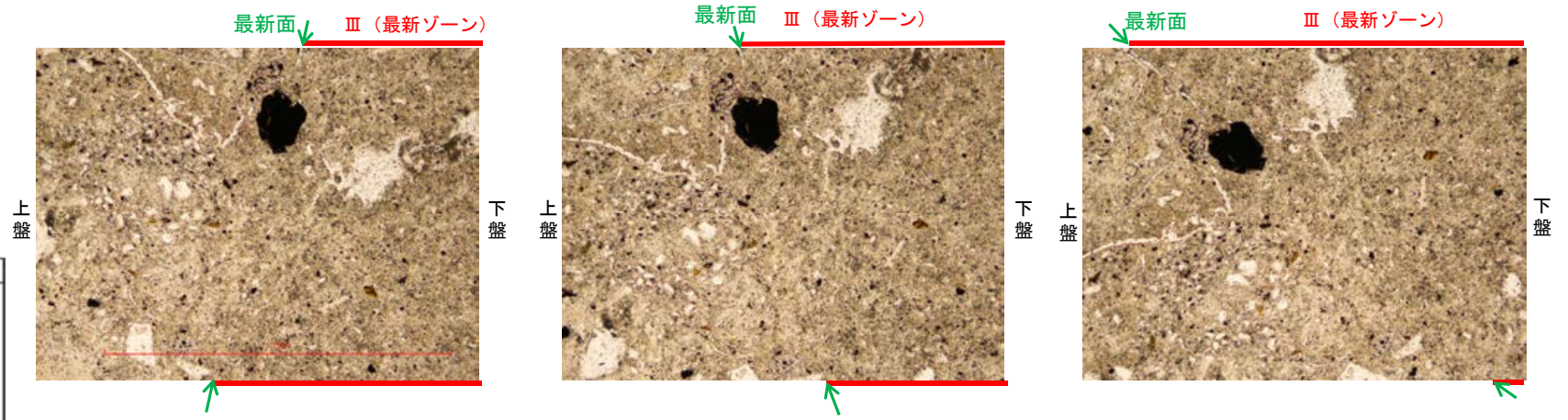
- 範囲Bにおいて詳細に観察した結果、最新面付近には広く粘土鉱物(I/S混合層)が網目状に分布し、最新面が不明瞭かつ不連続になっており、不連続箇所の粘土鉱物(I/S混合層)にせん断面や引きずりなどの変形は認められない。
- なお、不連続箇所においてI/S混合層生成以降の注入現象の有無を確認した結果、弓状構造や粒子の配列などの注入の痕跡は認められない。
- さらに、薄片作成時等に生じた空隙は、明確に認定できる最新面が不連続になる箇所の粘土鉱物(I/S混合層)の構造に影響を与えていないことから、不連続箇所は薄片作成時等の乱れの影響を受けていないと判断できる。



S-2・S-6_E-8.5-2孔

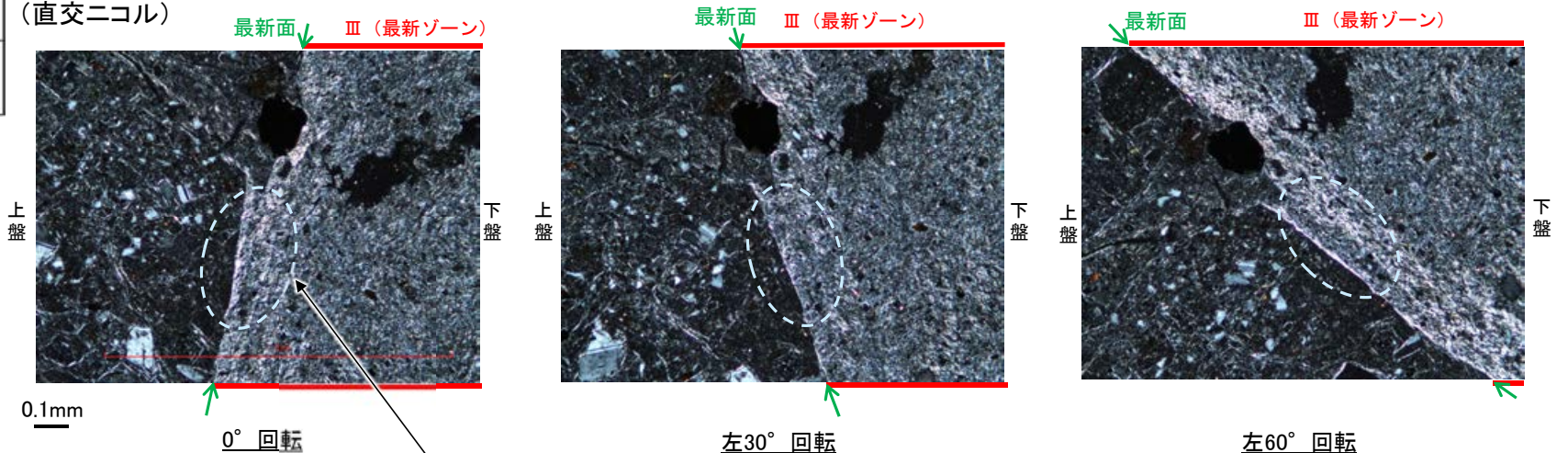
【ステージ回転(範囲B)】

(単ニコル)



注入現象の事例
(関西電力株式会社, 2016)

(直交ニコル)



- ・不連続箇所の粘土鉱物(I/S混合層)にせん断面や引きずり
などの変形は認められない。
- ・注入の痕跡は認められない。

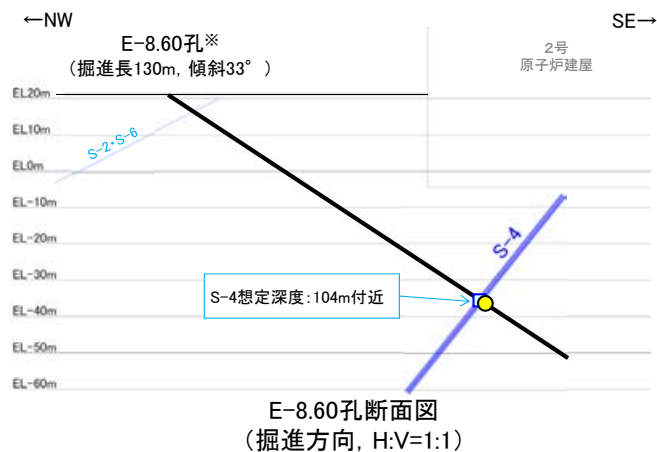
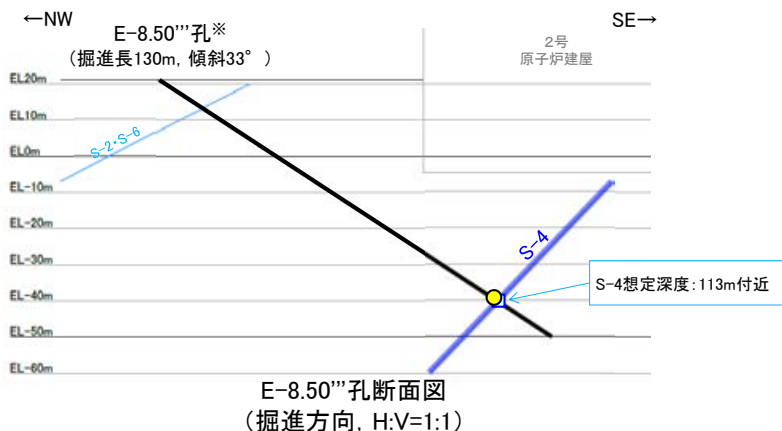
5.2.4 S-4

5.2.4 S-4の鉱物脈法による評価地点

■ 鉱物脈法による評価地点

○ 2地点 (E-8.50''' 孔, E-8.60 孔) において, S-4の最新ゾーンに少なくとも後期更新世以降に生成されたものではないと評価した変質鉱物であるI/S混合層が認められたことから, 断層活動(最新面)と変質鉱物との関係による評価を行った。

評価地点	記載頁
E-8.50''' 孔 (深度111.95m, EL-39.83m)	P.173~185
E-8.60 孔 (深度104.68m, EL-35.91m)	P.186~197



凡例
● 評価地点
□ S-4想定位置

※ 鉱物脈法による評価のために実施したボーリング

これらの図の断層線は, 周辺の露頭やボーリングでの出現位置を基に描いている。

紫字: 第875回審査会合以降の追加箇所



位置図

E-8.50''' 孔, E-8.60 孔のS-4想定深度付近のコア写真は, 補足資料5.2-12(3)

5.2.4 S-4 (1) E-8.50”孔 — 評価結果 —

【最新面の認定】

○E-8.50”孔の深度111.90m付近で認められるS-4において、巨視的観察及び微視的観察を実施し、最新ゾーンの上盤側及び下盤側の境界面それぞれ最新面1、最新面2を認定した(P.174～176)。

【鉱物の同定】

○微視的観察により確認した粘土鉱物は、EPMA分析(定量)による化学組成の検討結果及びXRD分析(粘土分濃集)による結晶構造判定結果から、I/S混合層であると判断される(P.177, 178)。

【変質鉱物の分布と最新面との関係】

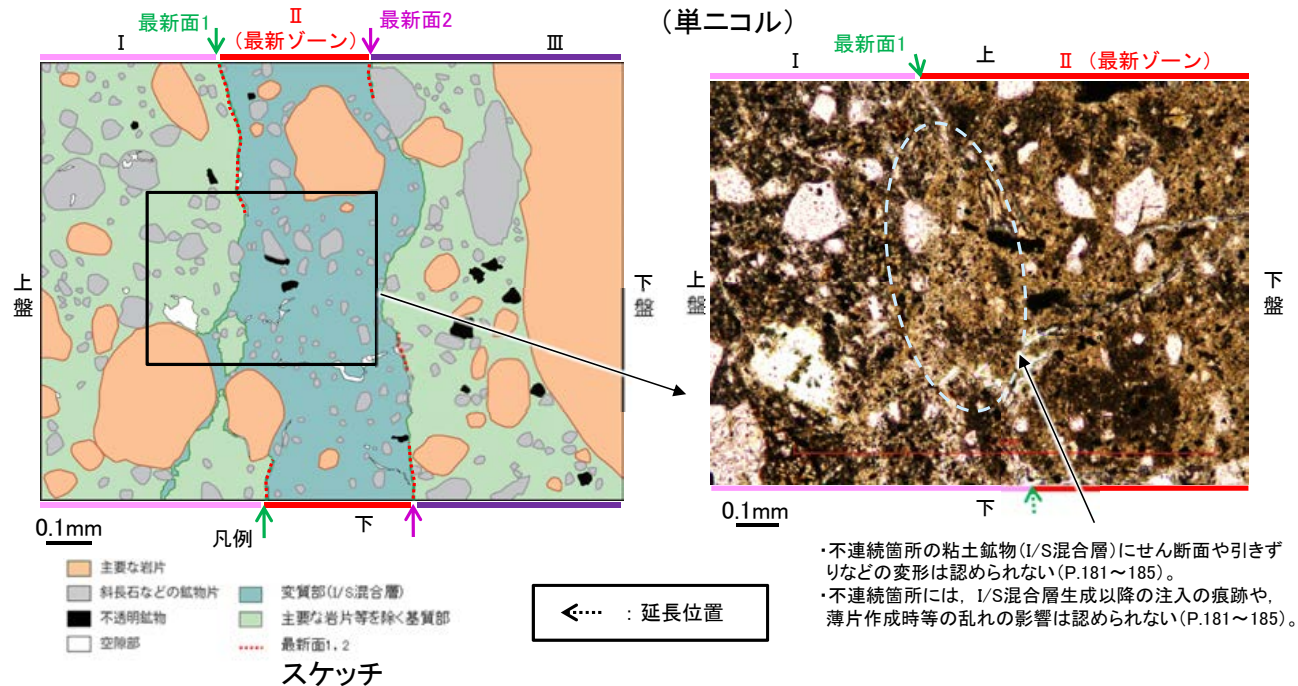
○EPMA分析(マッピング)や薄片観察により、粘土鉱物(I/S混合層)の分布範囲を確認した結果、粘土鉱物(I/S混合層)は最新ゾーン及びその周辺に分布している(P.179, 180)。

○最新面1, 2付近には広く粘土鉱物(I/S混合層)が分布し、最新面1, 2が不明瞭かつ不連続になっており、不連続箇所の粘土鉱物(I/S混合層)に変位・変形は認められない(P.181～185)。

○以上のことを踏まえると、S-4の最新活動は、I/S混合層の生成以前である。



調査位置図



・不連続箇所の粘土鉱物(I/S混合層)にせん断面や引きずりなどの変形は認められない(P.181～185)。
 ・不連続箇所には、I/S混合層生成以降の注入の痕跡や、薄片作成時等の乱れの影響は認められない(P.181～185)。

5.2.4 S-4 (1) E-8.50”孔 —最新面の認定(巨視的観察)—

- E-8.50”孔の深度111.90m付近で認められるS-4において、巨視的観察(ボーリングコア観察, CT画像観察)を実施し、最も直線性・連続性がよい断層面を主せん断面として抽出した。
- 隣接孔(E-8.50’孔)の主せん断面における条線観察の結果、131° Rの条線方向が確認されたことから、E-8.50”孔において、131° Rで薄片を作成した(ブロック写真)。



— 評価対象断層
S-O (陸域 EL-4.7m)

・条線観察結果については補足資料5.2-12(2)-3

調査位置図

(深度) 111.85 111.9 112.0 (m)

主せん断面 走向傾斜: N43° E/57° NW

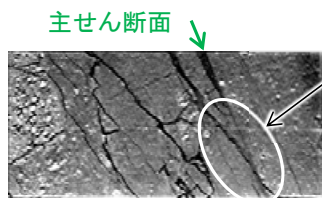
— 粘土状破砕部
— 固結した破砕部



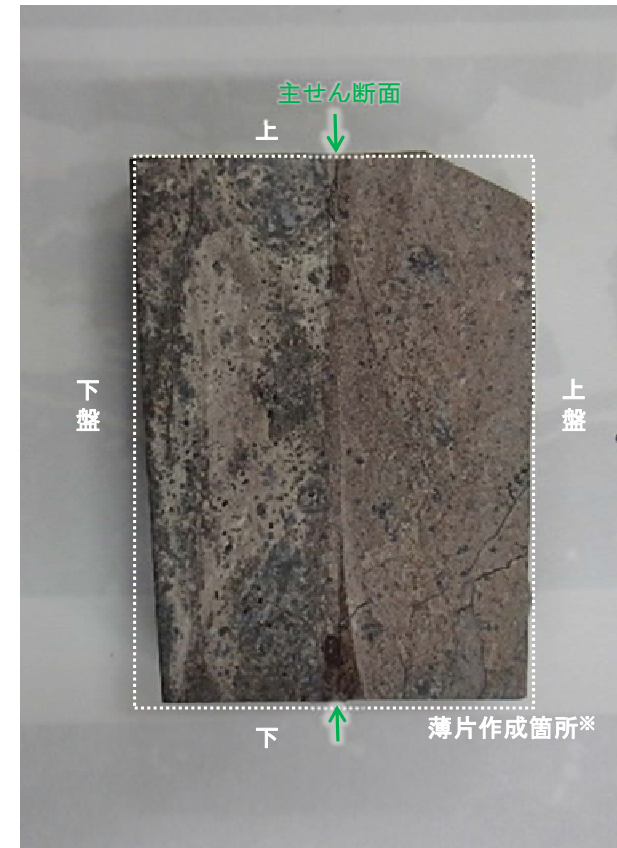
・ボーリングコア写真中の赤線は、ブロック採取時の目安として試料に加筆したもの

ボーリングコア写真 (E-8.50”孔)

右ブロック採取箇所



CT画像 (E-8.50”孔)



ブロック写真

※図示した箇所にて観察用薄片を作成し、そこから1mm程度削り込んだ位置でEPMA用薄片を作成した

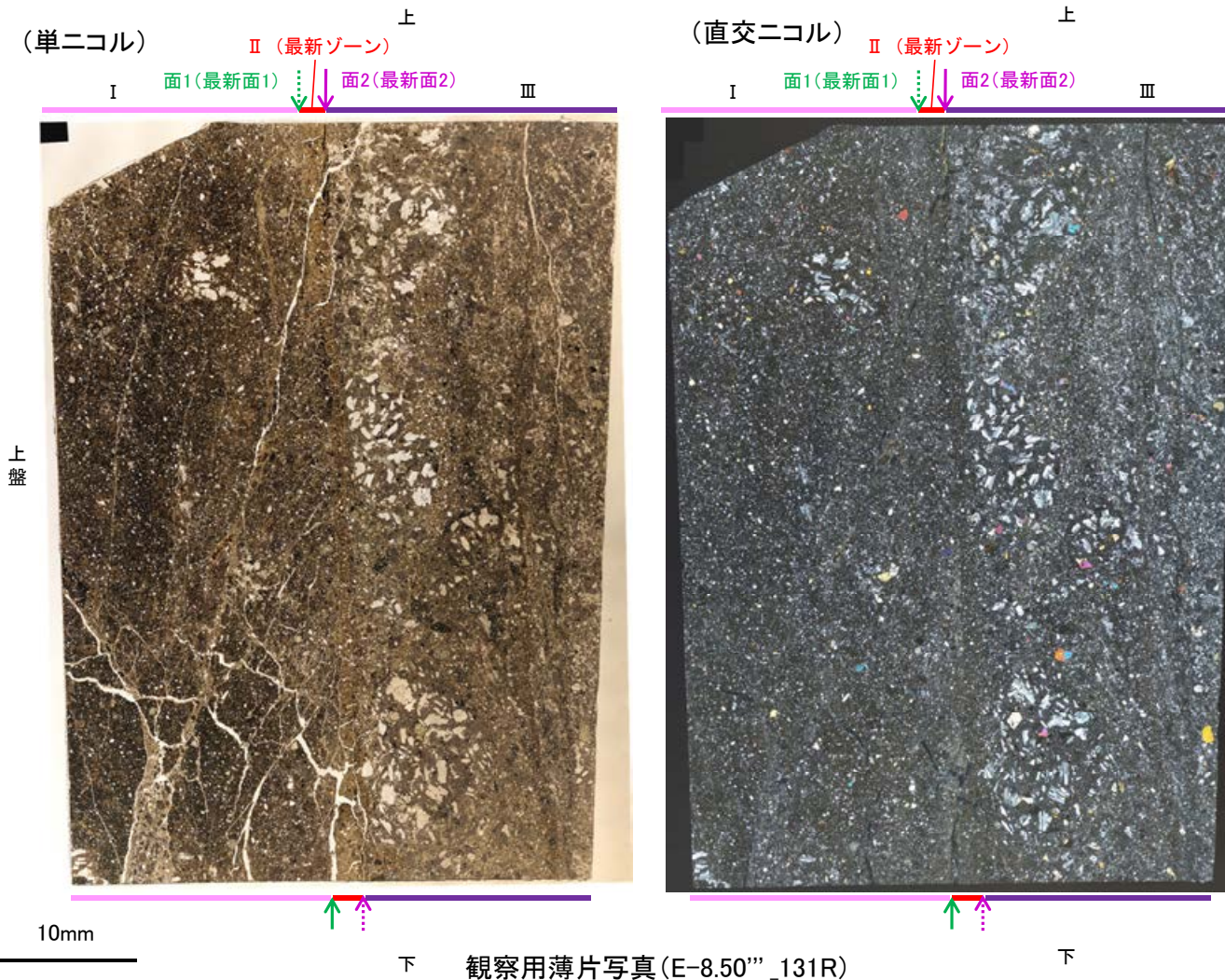
5.2.4 S-4 (1) E-8.50”孔 ー最新面の認定(微視的観察)ー

- 観察用薄片で実施した微視的観察(薄片観察)の結果, 色調や礫径などから, 上盤側よりⅠ～Ⅲに分帯される。
- そのうち, 最も細粒化している分帯Ⅱを最新ゾーンとして抽出した。
- 最新ゾーンと分帯Ⅰとの境界に, 面1(緑矢印)が認められる。面1は全体的に不明瞭だが, 最新ゾーンの中では比較的連続性がよい面である。
- 最新ゾーンと分帯Ⅲとの境界に, 面2(紫矢印)が認められる。面2は全体的に不明瞭だが, 最新ゾーンの中では比較的連続性がよい面である。
- 面1, 面2は同程度の直線性・連続性を有することから, 面1を最新面1, 面2を最新面2とし, それぞれについて変質鉱物との関係を確認する。

【解釈線なし】

分帯とコア観察における破碎部区分との対応

- ・分帯Ⅱ(最新ゾーン)・・・粘土状破碎部
- ・分帯Ⅰ, 分帯Ⅲ・・・固結した破碎部



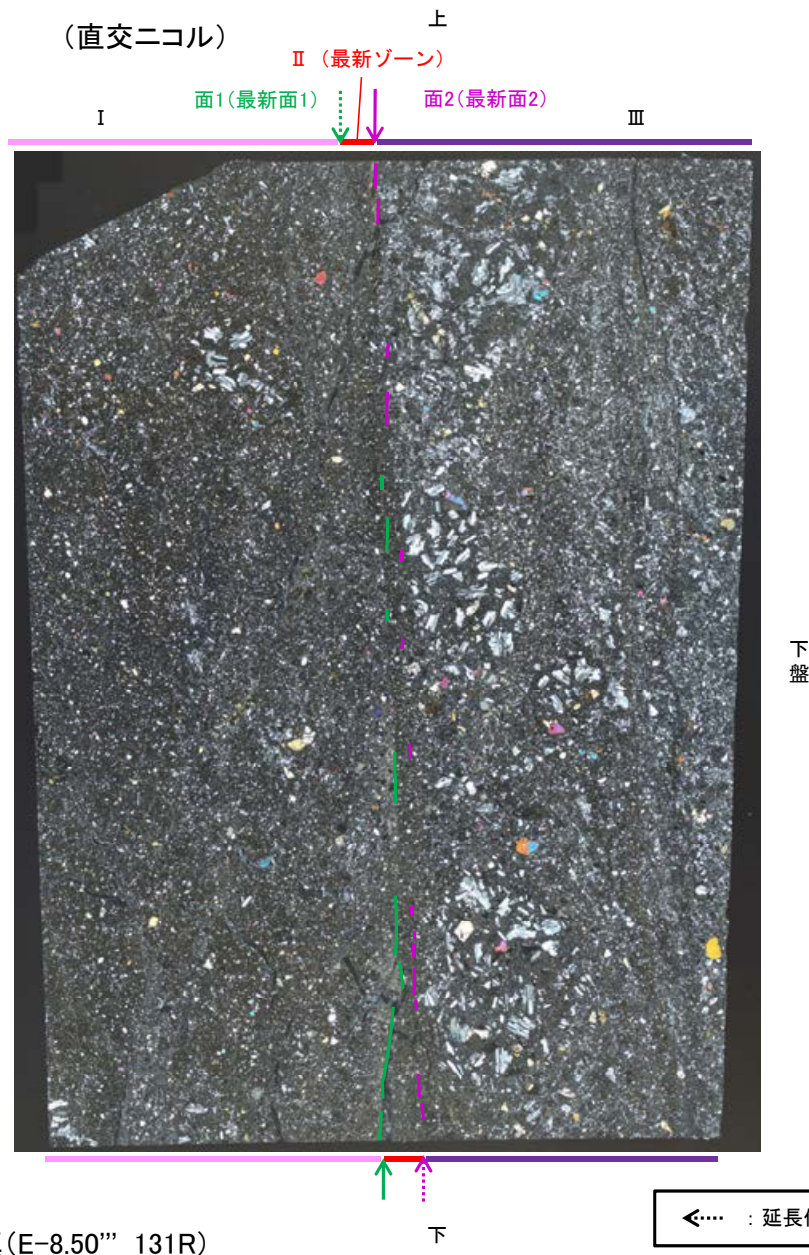
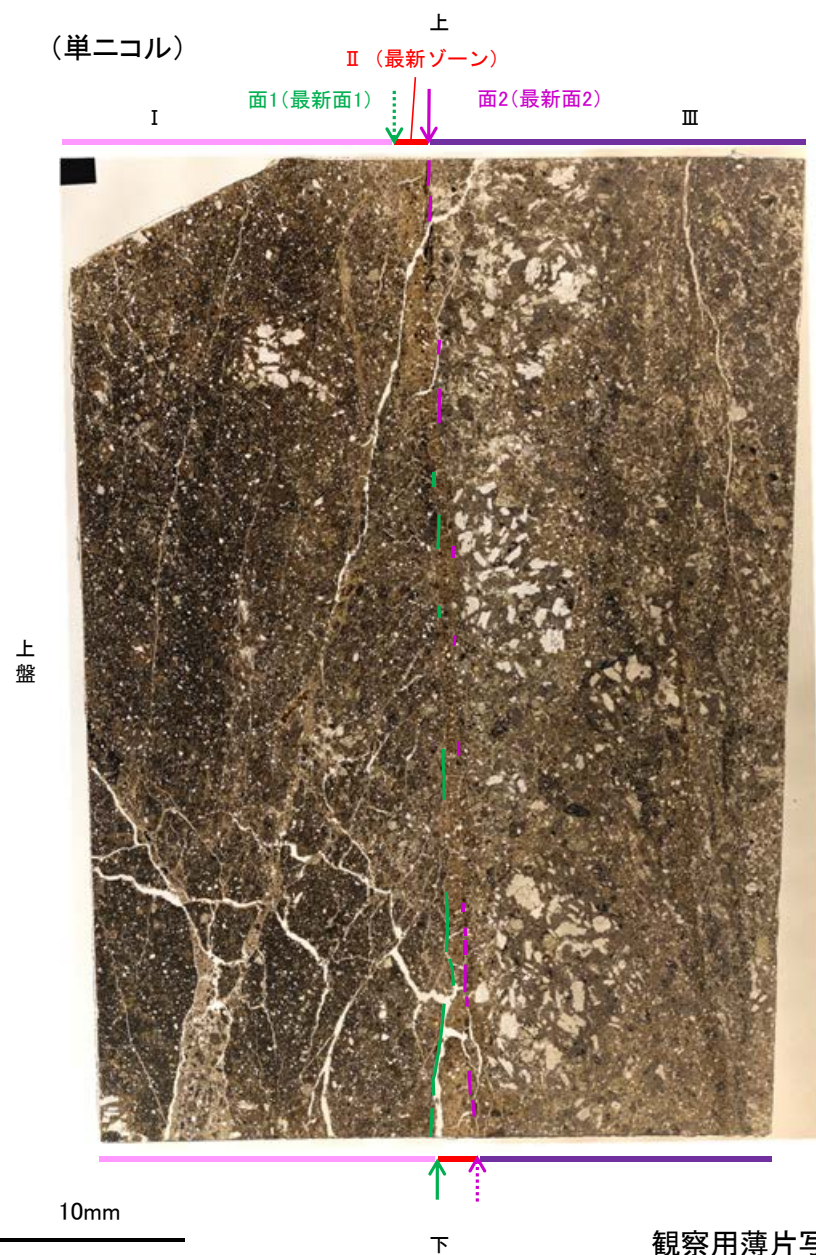
Ⅰ: 単ニコルで褐灰～暗灰色, 直交ニコルで灰～暗灰色の干渉色を呈する凝灰岩からなる。径5mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質に含まれている。岩片, 鉱物片は角～垂円形である。基質中や割れ目に粘土鉱物が生成されている。

Ⅱ(最新ゾーン): 単ニコルで褐灰色, 直交ニコルで灰～暗灰色の干渉色を呈する, 粘土鉱物を含む細粒物からなる。径2mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質に含まれる。岩片は垂角～垂円形, 鉱物片は角～垂円形である。基質中や割れ目に粘土鉱物が生成されている。

Ⅲ: 単ニコルで褐灰～灰色, 直交ニコルで灰～暗灰色の干渉色を呈する火山礫凝灰岩からなる。径13mm以下の岩片や鉱物片が細粒な基質に含まれる。岩片, 鉱物片は角～垂円形である。一部の基質中に粘土鉱物が生成されている。

←… : 延長位置

【解釈線あり】



観察用薄片写真(E-8.50”_131R)

←… : 延長位置